

都城市内遺跡 12

- *The Sites excavated in Miyakonojō City (12th)* -

2019

都城市教育委員会

序

本書は、都城市教育委員会が国・県の補助を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の記録です。各種開発に対し埋蔵文化財の保護を目的に行った試掘・確認調査、遺跡の範囲確認調査の記録を報告しています。

この報告書が文化財行政の一資料としてだけでなく、学校教育・生涯学習の場などで広く活用され、地域の歴史を知る手掛かりとして活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、多大なる御協力を賜りました各関係機関、地域の皆様に対し深く感謝申し上げます。

平成 31 年 3 月

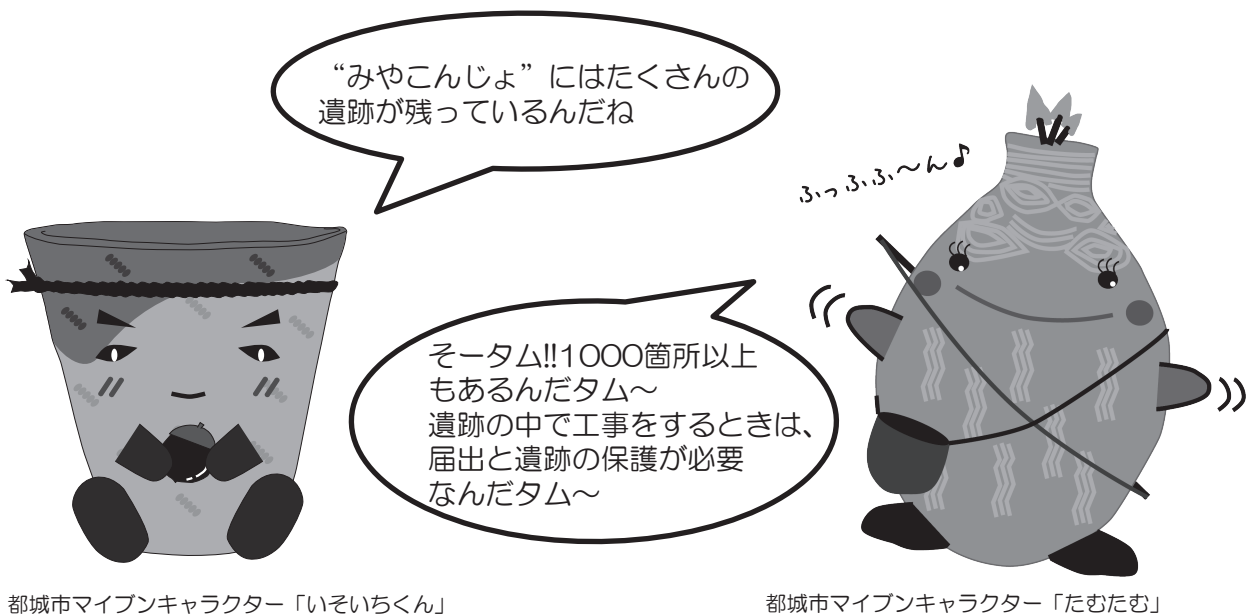
都城市教育委員会
教育長 児玉晴男

例言

1. 本書は、都城市が平成 30 年度に国宝重要文化財等保存整備費補助金及び宮崎県埋蔵文化財緊急調査補助金を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 補助事業の事業主体は都城市、調査主体は都城市教育委員会である。
3. 調査の目的は、都城市内の各種開発予定地における埋蔵文化財の有無及び遺存状況の確認、遺跡の範囲確認である。
4. 本書では、平成 30 年度実施の試掘・確認調査のうち、補助事業として実施した 12 件、平成 3 年度に実施した試掘調査 1 件の概要を報告している。
5. 現場における記録写真の撮影及びトレンチ配置図・土層断面図の作成、製図、調査概要の作成は、各調査担当者が行った。
6. 出土遺物の実測は、文化財課嘱託外山亜紀子及び整理作業員が行い、製図は外山・同主任主事原栄子・同副主幹近沢恒典が行った。
7. 本書の編集は、各担当者が作成した調査概要をもとに近沢が中心となって行った。
8. 現場における測量には遺跡調査システム「Site Xross」、本書に使用した図面の製図・編集には「Adobe Illustrator CC」・「Adobe InDesign CC」を使用している。
9. 本書の調査区位置図に示している「過年度調査地点」は、本年度以前に試掘調査・確認調査・記録保存を目的とする発掘調査のいずれかを実施した地点である。
10. 出土遺物及び各種記録類は、都城市教育委員会で保管している。

目次

1. 試掘・確認調査の概要	1
2. 下長飯城ヶ尾遺跡	5
3. 田谷・尻枝遺跡	6
4. 遺跡枠外（沖水・志和池・庄内地区公民館）	8
5. 遺跡枠外（花木第3団地）	10
6. 八幡城遺跡	11
7. 白拍子遺跡	15
8. 宮崎県指定史跡 高城町古墳（19号）	17
9. 都城跡（中之城）	20
10. 犬王遺跡	21
11. 遺跡枠外（下川東四丁目）	22
12. 遺跡枠外（都城西飛行場跡）	24
13. 郡元西原遺跡範囲確認調査	25
14. 切畑第3遺跡	35
報告書抄録	37



1. 試掘・確認調査の概要

都城盆地は九州南部内陸部にあつて、霧島火山群の東南のふもと、宮崎県南西部から鹿児島県北東部にかけて広がる。その起源は列島形成時の陥没帯とされる。基盤層は四万十累層群とされ、近隣火山群の強い影響の下、シラス台地などの火山噴出物起源の地形形成が発達している。南北に細長い盆地の周縁には標高 400 m 程度の山地が連なり、南のみが大隅半島にむけて開口する。四方より流入する河川群は、盆地を南北に貫流する大淀川へと収束されたのち、北縁の山地帯を抜け宮崎平野へと至る。内部地形は大淀川を境に西側のシラス台地、東の扇状地性の低位段丘に大別される。

都城市は東西 25km、南北 35km、面積約 650 平方km、周縁山地を含む盆地の大半を占めている。人口規模は約 16 万人、中心的な市街地は盆地底南部の扇状地面に形成されている。

都城市内における「周知の埋蔵文化財包蔵地」は、山間部を除く各地形面にまんべんなく分布するが、大淀川やその支流沿いの河岸段丘面、台地縁部、開析扇状地の側端部における分布密度が高い。また、九州南部域では霧島や桜島などの火山群から噴出した火山灰が多く分布しており、遺跡調査の際の指標として利用されている。都城市内でも複数の火山灰層が確認できるが、目視同定が可能な次の 6 種が試掘・確認調査の際に多く利用される。霧島新燃岳享保軽石 (Kr-SmK・霧島火山新燃岳起源・1717)。桜島 3 テフラ (Sz-3・桜島文明軽石・桜島起源・1470 年代・土層説明では白色軽石・灰白色軽石と記載)。霧島御池軽石 (Kr-M・霧島火山御池起源・約 4,600 年前・土層説明では黄色軽石・黄橙色軽石と記載)。鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah・鬼界カルデラ起源・約 6,600 年前)。桜島 11 テフラ (Sz-11・桜島起源・約 8,600 年前)。桜島薩摩テフラ (Sz-S・桜島起源・約 12,800 年前)¹⁾²⁾。

平成 30 年度、民間事業に伴う埋蔵文化財の照会件数は 440 地点 (集計数値は平成 31 年 2 月 17 日時点。以下同様) の記録が残り、公共事業に関しては市内の事業調査にて 144 事業が把握される。前年度と比較し、民間事業は 30 件程度の増加、公共事業はほぼ同規模となっている。

試掘・確認調査は民間事業において 70 地点、公共事業では 33 地点の調査を実施した。民間事業では個人住宅や宅地造成、太陽光発電施設、畜舎建設など多岐にわたり、公共事業では道路拡幅、農業基盤整備事業、公有地売却、遺跡範囲確認などが主体となる。これらの試掘・確認調査のうち、31 件を国・県の補助事業として実施した。

文化財保護法に基づく発掘届出 (文化財保護法第 93 条関係。以後、法と略記) は 87 件、発掘通知 (法第 94 条関係) は 23 件を宮崎県教育委員会へ進達した。宮崎県教育委員会からの通知内訳は、記録保存のための発掘調査 8 件、工事立会い 44 件、慎重工事 53 件、処理中 2 件、事後提出に対する指導 3 件である。発掘調査に関しては、都城市教育委員会が主体となる調査が 4 件 (1 件は平成 29 年度からの継続)、宮崎県埋蔵文化財センターが主体となった調査が 5 件である。

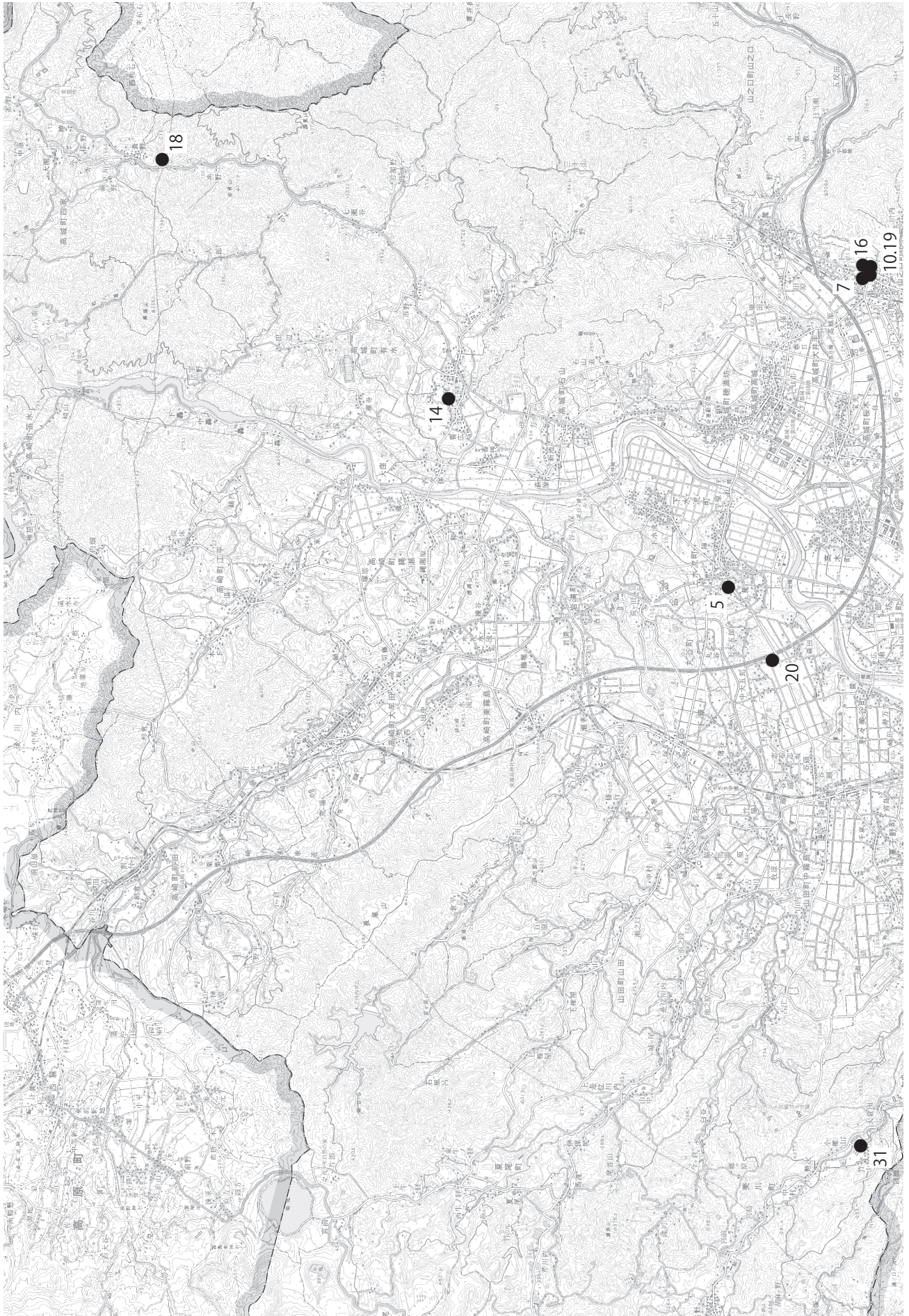
切畑第 3 遺跡は、平成 3 年 7 月に市道新設に伴って実施した試掘調査である。この事業は現在まで未報告となっていたが、青花磁器瓶の出土など、都城盆地の中世における重要な資料であるため、本書にて合わせて概要を報告する。

【調査組織】 調査主体 都城市教育委員会

教育長	児玉晴男
教育部長	栗山一孝
文化財課長	武田浩明
副課長	栞畑光博
副主幹	栗山葉子 近沢恒典
調査担当	栞畑光博 栗山葉子 近沢恒典 加覧淳一 中園剛史 原栄子 福添暁久 下田代清海 外山亜紀子 早瀬航
庶務	木下真由美

1) 早田勉. 2006. 「8.4 都城盆地とその周辺に分布するテフラ (火山灰)」。『都城市史 資料編 考古』。都城市。

2) テフラの年代は 1) の暦年較正年代を参考とした。



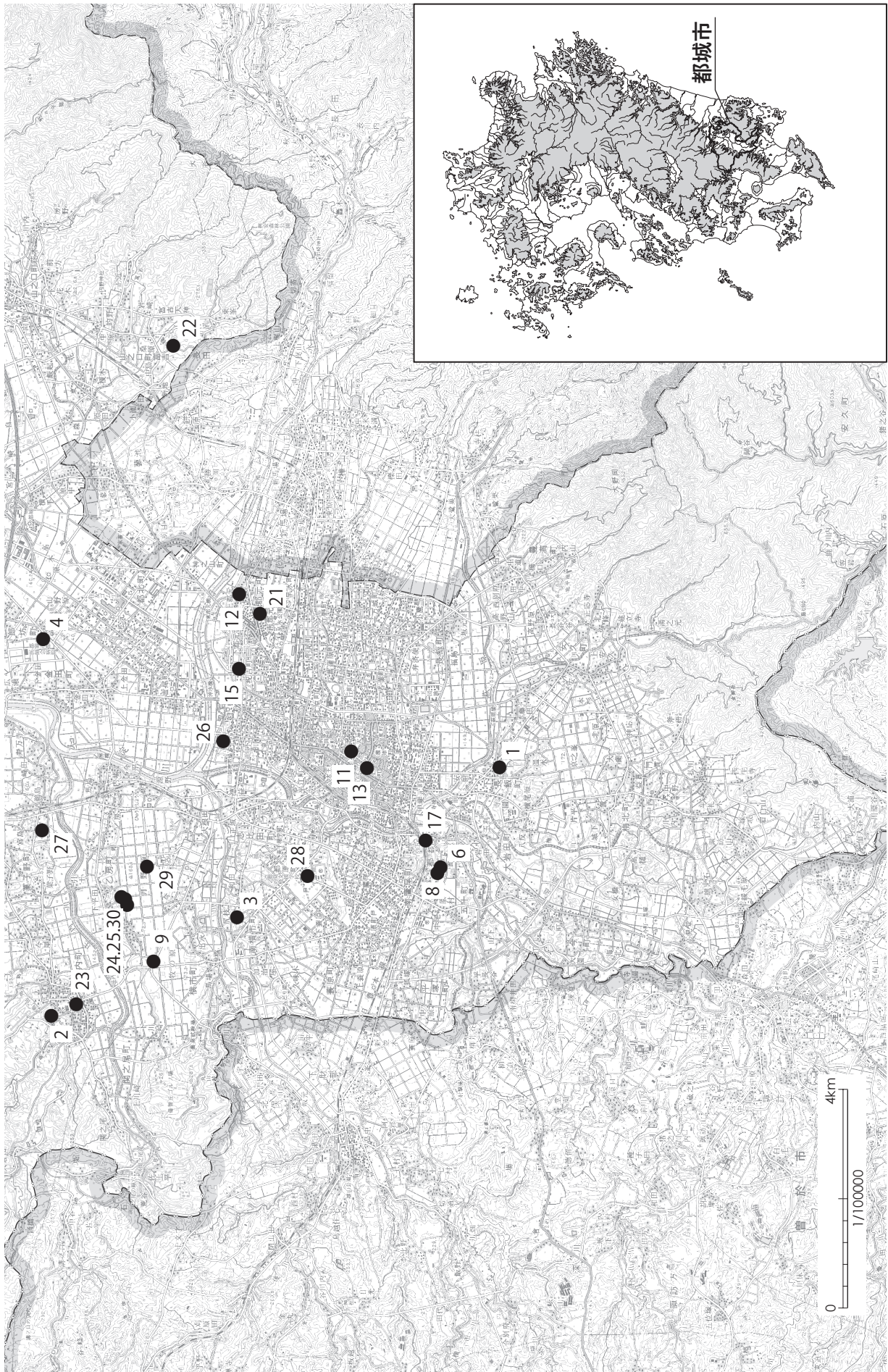


図 1. 試掘・確認調査地点 (No. は表 1 と一致)

表 1. 試掘・確認調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査期間	主な時代	主な遺構・遺物	備考
1	下長飯城ヶ尾遺跡	下長飯町 703	個人住宅	4/5	古代	土師器	
2	安永城跡	庄内町 13286	農業関連(畜舎)	4/16-5/1	中世	溝状遺構・柱穴	
3	田谷・尻枝遺跡	南横市町 4045-1 ほか	宅地造成	4/25	弥生	周溝状遺構	
4	遺跡枠外(沖水地区公民館)	太郎坊町 1840-2	その他建物(公民館)	4/27	なし	なし	
5	遺跡枠外(志和池地区公民館)	上水流町 1536 ほか	その他建物(公民館)	4/27	なし	なし	
6	瀬戸ノ上遺跡	都島町 937-13	個人住宅	5/9	中世	溝状遺構・白磁片	
7	遺跡枠外(花木第3団地)	山之口町花木 2405-3	市営住宅	5/16-17・29	縄文	土器片	新規「山之口佐土原遺跡」
8	八幡城遺跡	五十町 1092 ほか	宅地造成・個人住宅	5/24・25	中世・近世	溝状遺構・土師器片・近世播鉢片	
9	牧の原遺跡(第2地点)	乙房町 2862 ほか	農業基盤整備事業(天地返し)	6/22	なし	なし	
10	峯元第1遺跡	山之口町花木 2443-1	個人住宅	6/27	中世	溝状遺構	
11	中町遺跡	中町 77	その他開発(公有財産処分)	7/12	なし	なし	
12	白拍子遺跡	郡元町 2688-3 ほか	その他開発(不動産鑑定)	8/1	中世・近世	溝状遺構・中世・近世陶磁器片	
13	遺跡枠外(上町)	上町 2360-6 ほか	店舗	8/9	近世・近代	不明遺構・陶磁器片	新規「上町遺跡」
14	高城 19号墳	高城町有水 2833-2	墳丘保全	8/16-23	古墳	周溝・須恵器片	
15	松原地区遺跡群	郡元三丁目 15-12	集合住宅	9/7	中世	土坑・柱穴・土師器片	
16	峯元第1遺跡(第2地点)	山之口町花木 2472-1	その他開発(太陽光発電施設)	9/10	縄文・弥生	土器片	
17	都城跡(中之城)	都島町 863-1 ほか	その他開発(不動産鑑定)	9/11	なし	なし	
18	養野第3遺跡	高城町四家 1838-1 ほか	農業関連(畜舎)	9/25-26	縄文	焼礫	
19	峯元第1遺跡(第3地点)	山之口町花木 2499-5 ほか	その他開発(公有財産処分)	10/4	縄文・弥生・古代	土器片	
20	森田原遺跡	野々美谷町 3208-3 ほか	農業関連(畜舎)	10/22-23	中世	溝状遺構	
21	郡元西原遺跡	郡元町 3337 ほか	遺跡範囲確認	10/29-12/25	古代・中世	大型溝状遺構・溝状遺構・柱穴・白磁片・東播系須恵器片・土師器片	
22	犬王遺跡	山之口町花木 483-2 ほか	農業基盤整備事業(柳地かんがい事業)	11/27	縄文・古代	柱穴・土器片	「高才第3地区」
23	遺跡枠外(庄内地区公民館)	庄内町 12651-1 ほか	その他建物(公民館)	11/26-30	なし	なし	
24	上野原第1遺跡	乙房町 2303-1 ほか	農業基盤整備事業(天地返し)	12/6	なし	なし	
25	上野原第1遺跡(第3地点)	乙房町 2313-2 ほか	農業基盤整備事業(天地返し)	12/6	なし	なし	
26	遺跡枠外(下川東四丁目)	下川東四丁目 4037 ほか	公園	12/12-13	古代・中世	水田跡・土師器片・須恵器片	新規「中尾下第2遺跡」
27	松元遺跡	志比田町 5015-7	その他建物(倉庫)	12/17-18	古代	土師器片	
28	遺跡枠外(都城西飛行場跡)	都原町 7427	道路	12/25	なし	なし	
29	上野原第2遺跡	乙房町 2331-1 ほか	農業基盤整備事業(天地返し)	2/7	なし	なし	
30	上野原第1遺跡(第2地点)	乙房町 2405-1 ほか	農業基盤整備事業(天地返し)	2/27	なし	なし	
31	切畑第3遺跡	美川町	道路	1991.7.16-20	なし	なし	工事中に青花磁器瓶発見

2. 下長飯城ヶ尾遺跡

所在地 下長飯町 703
 調査原因 個人住宅
 調査期間 2018.4.5 (再確認：5.6)
 調査面積 1.4㎡ (再確認：2.1㎡)

担当者 桑畑光博・下田代清海・
 外山亜紀子
 調査後の措置 工事立会

位置と環境 開発予定地は盆地底南縁に広がるシラス台地群(梅北台地)の北縁に位置し、萩原川と梅北川に開析された河岸段丘上に立地している。現況は宅地・畑地である。

調査の結果 トレンチ2箇所を設定し、確認調査では人力のみ、再確認調査では重機・人力にて掘り下げて地下の状況を確認した。

基本的な層序は現耕作土(1・2層)、黒褐色土(旧耕作土・3層)、黒色土(4・5層)、霧島御池軽石(6層)となる。

確認調査・再確認調査・工事立会において、4層上半部より、土師器坏・高台付碗・甕、須恵器等、多くの遺物が出土した。6層で遺構検出を実施したが、遺構は確認されなかった。1～3は土師器高台付碗である。4・5は土師器坏底部で底部へラ切り離しである。5はいわゆる円盤高台である。9世紀後半から10世紀初頭の時期が考えられる¹⁾。

以上の結果より、開発予定地には平安時代前期を中心とする遺跡が良好な状態で存在している可能性が高いと判断した。

1) 近沢恒典, 2011. 「都城盆地の古代土師器の編年について」『平成23年度埋蔵文化財担当専門職員研修会・資料集』, 宮崎県埋蔵文化財センター

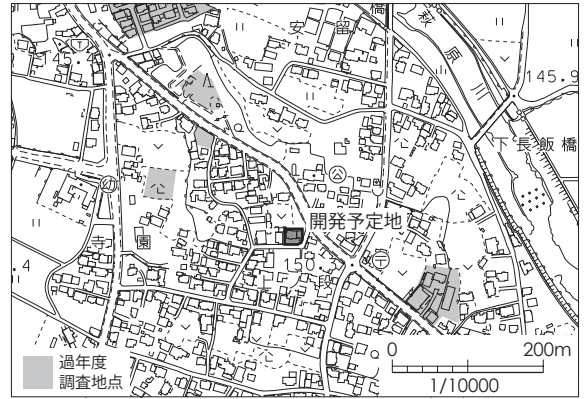


図1. 調査区位置

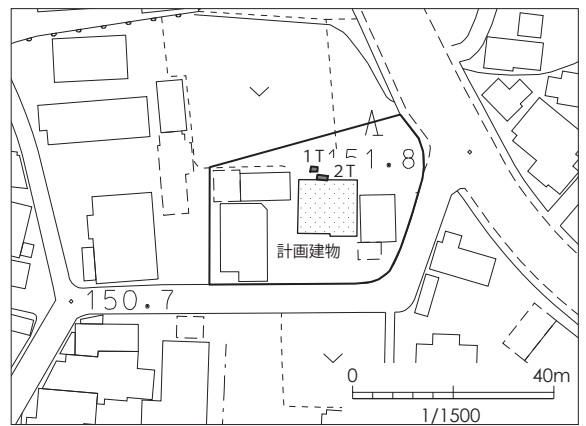


図2. トレンチ配置

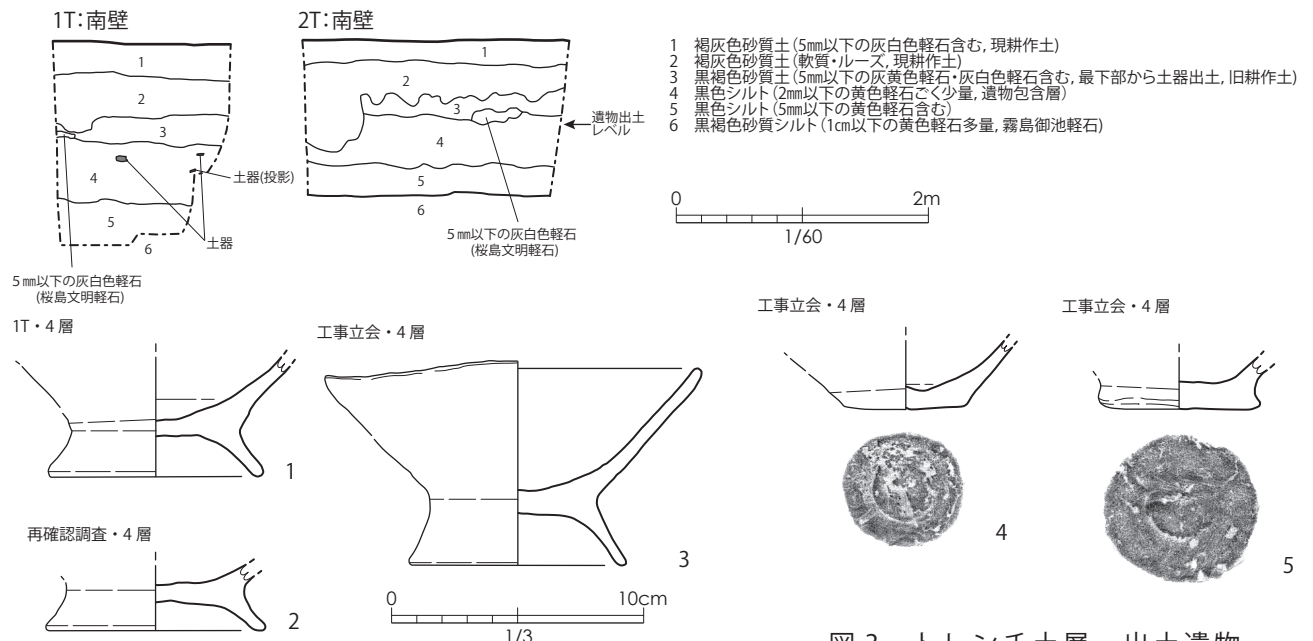


図3. トレンチ土層・出土遺物

3. 田谷・尻枝遺跡

所在地 南横市町 4045-1 ほか
調査原因 宅地造成
調査期間 2018.4.24

調査面積 43m²
担当者 近沢恒典・下田代清海
調査後の措置 工事立会

位置と環境 開発予定地は盆地南西部に広がる成層シラス台地面（葦原台地）の北縁部に位置し、横市川右岸の河岸段丘へと続く台地面の端部に立地している。現況は既存住宅の撤去と樹木を伐採したあとの荒地の状態であった。2017年度に実施した南側隣接地の調査では、開発予定地の一部にて弥生時代の遺物包含層を確認している。

調査の結果 トレンチ6箇所を設定し、重機・人力にて掘り下げ、地下の状況を確認した。

基本的な層序は表土(1層)、黒色土(2層)、黒褐色土(3・4層)、霧島御池軽石(5・6層)となる。遺構検出は4～5層で実施した。

1T、3T～6Tでは遺構・遺物は確認されなかった。全体的に竹根などの生物擾乱が進行していた。

2Tでは北～西へと緩やかな円弧状の平面形の浅い溝状遺構(ST1)を検出した。断面形状は緩やかなU字状であり、検出面からの深さは20cm程度と非常に浅い。2Tは表土直下が検出面である5層となっており、上位の削平が考えられる。

溝内の3箇所から弥生土器片がまとめて出土した。いずれも底面より10cm程度高いレベルである。出土位置のまとまり内で接合が進み、**1**は完形まで接合した。**1**は小型甕である。体部の張りや頸部の屈曲は弱く、口縁部は外方に向かってゆるやかに開く。明確な脚台がつく。内外面ハケ目調整である。口径21.6cm、底径5.2cm、器高21cm。**2**は壺である。体部から肩部にかけて緩やかにすぼまり、頸部で屈曲し口縁部は短く外反する。口径15cm。**3**は刻み目突帯のつく甕口縁部である。**4**は脚台のつく甕底部である。**1**は加覧氏分類¹⁾の甕D3、**3**は甕C2(中溝式)と考えられる。遺構の形状と出土遺物より、弥生時代中期後半～後期初頭の周溝状遺構と考えられた。

以上の点より、開発予定地には2T周辺を中心に弥生時代の遺跡が存在している可能性が高いと判断した。

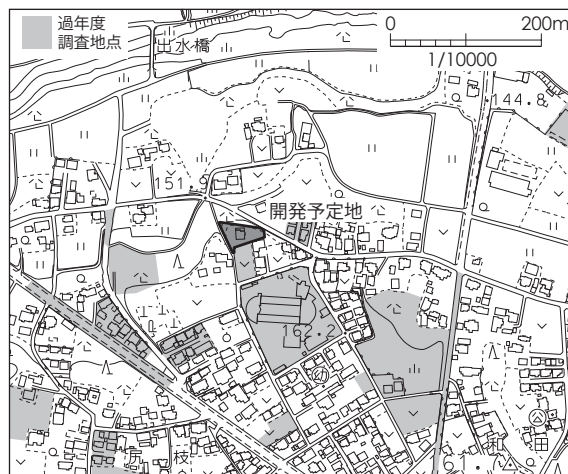


図1. 調査区位置



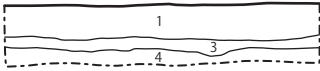
図2. トレンチ配置



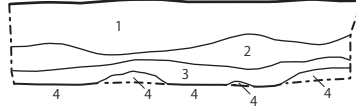
図版1. 2T：ST1(南東から)

1) 加覧淳一、2014。「都城盆地における弥生時代中期から後期前葉の土器様相」、『Archaeology From the South II 新田栄治先生退職記念論文集』新田栄治先生退職記念事業会

1T：西壁



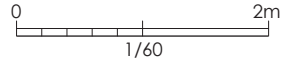
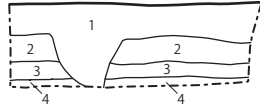
3T：北壁



4T：北壁



6T：北壁

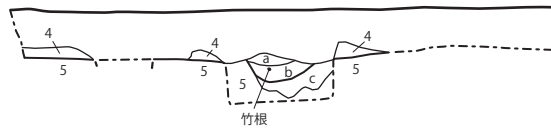


- 1 灰褐色砂質土(5mm以下の黄・白色軽石まんべんなく含む,表土)
- 2 黒色シルト(1mm以下の黄色軽石微量)
- 3 黒褐色シルト(5mm以下の黄色軽石多量)
- 4 黒褐色シルト(10mm以下の黄色軽石非常に多い)
- 5 霧島御池軽石漸移層
- 6 霧島御池軽石層

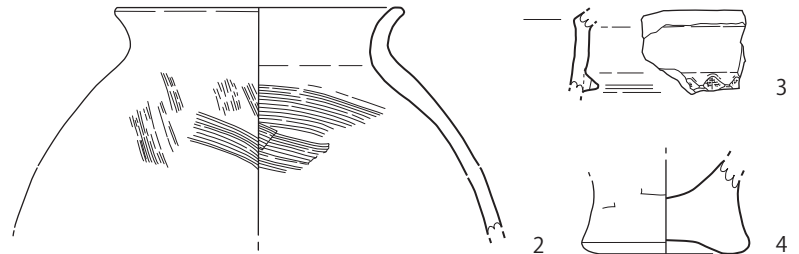
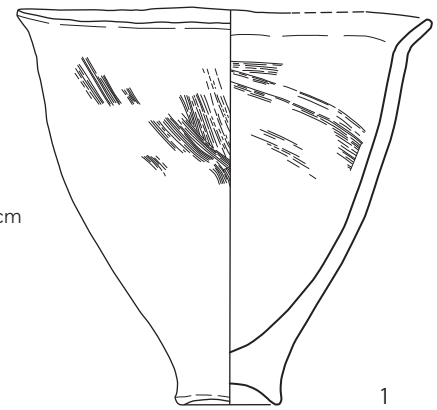
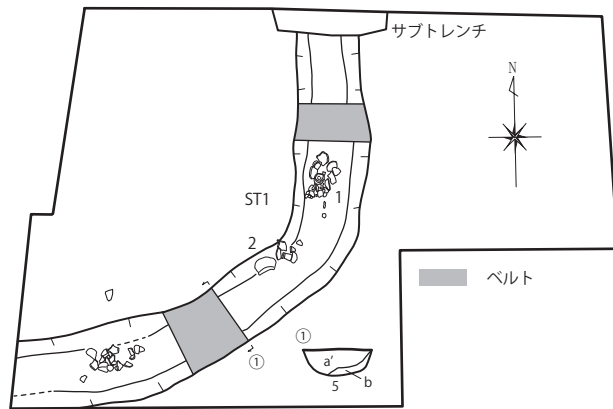
5T：北壁



2T：北壁



- a 黒色シルト(1cm以下の黄色軽石ごく少量, ややほぐれる)
- a' 黒色シルト(1cm以下の黄色軽石ごく少量, 固くしまる)
- b 黒色シルト(1cm以下の黄色軽石多量, まんべんなく含む)
- c 黒色シルト(1cm以下の黄色軽石多量, 木根)



図版 2. 2T：ST1・出土遺物

図 3. トレンチ土層・平面・出土遺物



図版 3. 2T：ST1・土器 1 出土状況



図版 4. 2T：ST1・土器 2 出土状況

4. 遺跡粹外（沖水・志和池・庄内地区公民館）

所在地	沖水 太郎坊町 1840-2 ほか 志和池 上水流町 1536 ほか 庄内 庄内町 12651-1 ほか	調査面積	沖水 4㎡ 志和池 2㎡ 庄内 12㎡
調査原因	地区公民館建設	担当者	加覧淳一・原栄子
調査期間	沖水 2018.4.27 志和池 2018.4.27 庄内 2018.11.26~30	調査後の措置	慎重工事

沖水地区公民館 開発予定地は盆地底北半に広がる開析扇状地面（高木原扇状地）の中央に位置している。旧北消防署跡地である。トレンチ1箇所を設定し、重機・人力で掘り下げて地下の状況を確認した。

層序は造成土（1・2層）、黒褐色土（3・4層）、にぶい黄橙色土（5層）、砂礫層（6層）となる。6層は河川作用に伴う堆積である。いずれの層においても遺構・遺物は確認されず、開発予定地に遺跡が存在する可能性は低いと判断した。

志和池地区公民館 開発予定地は盆地北縁西側に広がるシラス台地面（谷頭台地）のほぼ中央に位置している。現志和池地区公民館と志和池福祉センターの敷地内である。トレンチ1箇所を設定し、人力で掘り下げて地下の状況を確認した。

層序は造成土（1・2層）、灰褐色～黒褐色土（3～5層）となる。いずれの層においても遺構・遺物は確認されなかった。また、通常の台地上の土層堆積と比較して4・5層の堆積が厚く、浅い谷状の旧地形が考えられた。以上の点より、開発予定地に遺跡が存在する可能性は低いと判断した。

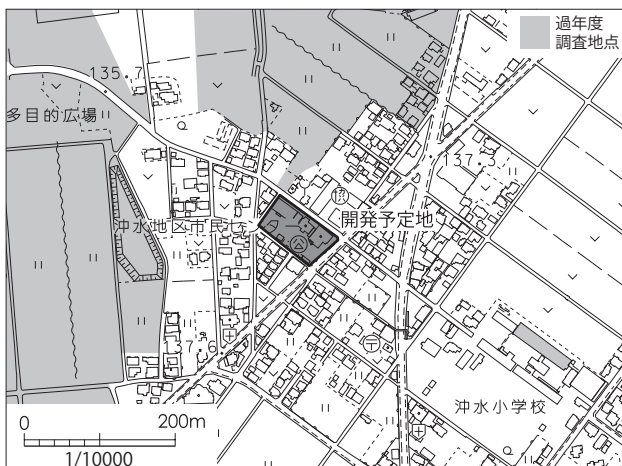


図1. 調査区位置（沖水地区公民館）

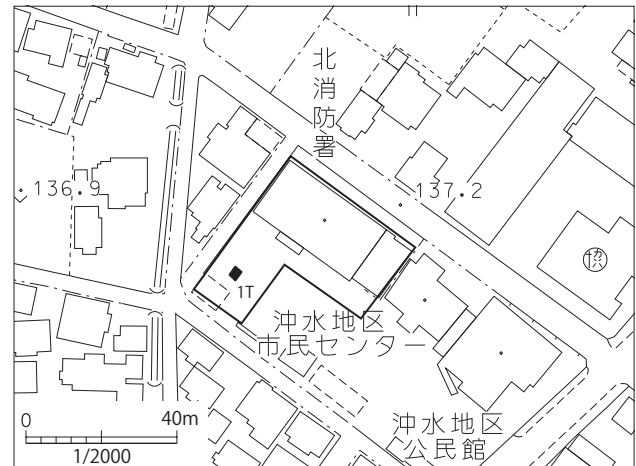


図2. トレンチ配置（沖水地区公民館）

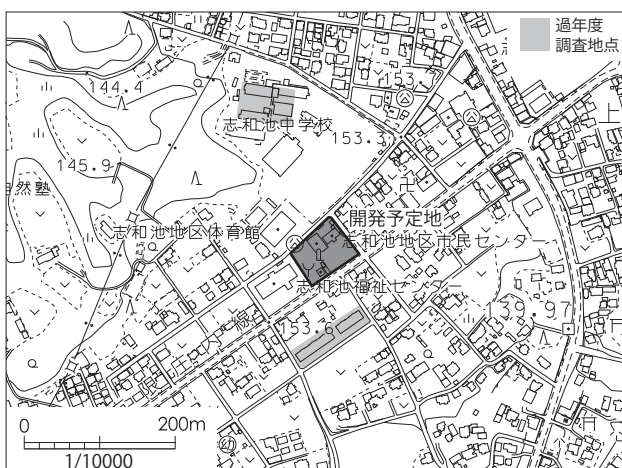


図3. 調査区位置（志和池地区公民館）

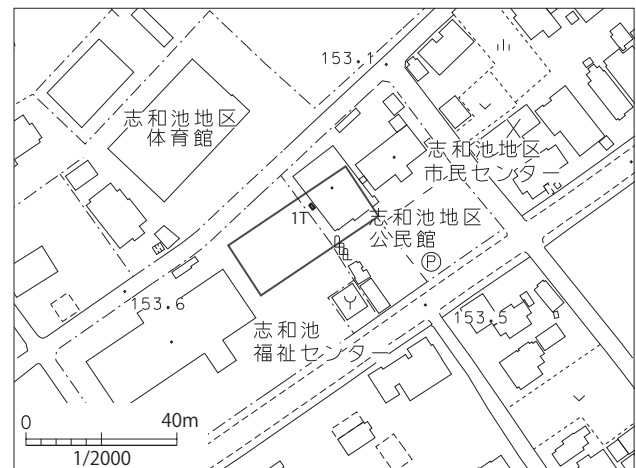


図4. トレンチ配置（志和池地区公民館）

庄内地区公民館 開発予定地は、盆地北西部、庄内川左岸に展開する河岸段丘面（庄内川段丘群）のほぼ中央に位置している。現庄内地区公民館の敷地内である。トレンチ3箇所を設定し、アスファルトをカッターで切断したのち、重機・人力で掘り下げて地下の状況を確認した。

層序はアスファルト・造成土(1～3層)、黒褐色土(4～6層)、霧島御池軽石(7層)、黒色土(8層)、鬼界アカホヤ火山灰(9・10層)、黒色土(11・12層)、にぶい黄褐色土層(13～15層)となる。1T・2Tは造成土が厚く、現地表面下2mを越えても7層に達しなかった。逆に3Tでは7層以上が削平されていた。14層～15層上面にて数点の焼礫が出土した。なお、北に50mのコミュニティバス車庫予定地(4T)でも1T・2Tと同様な堆積が確認された。以上の点より、開発予定地の旧地形としては、西→東へ大きく下る谷地形が考えられ、良好な遺跡が存在する可能性は低いと判断した。

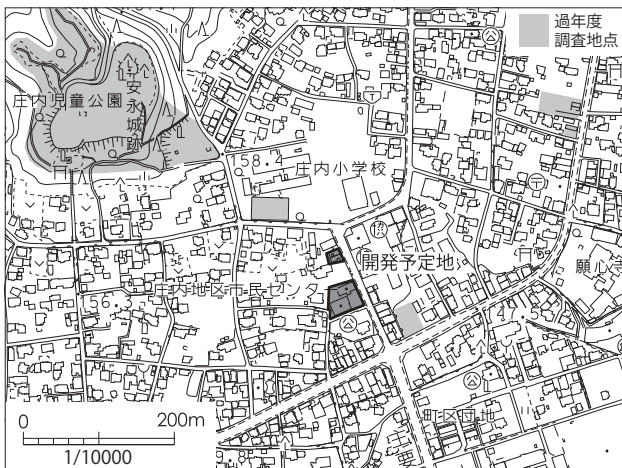


図 5. 調査区位置（庄内地区公民館）



図 6. トレンチ配置（庄内地区公民館）

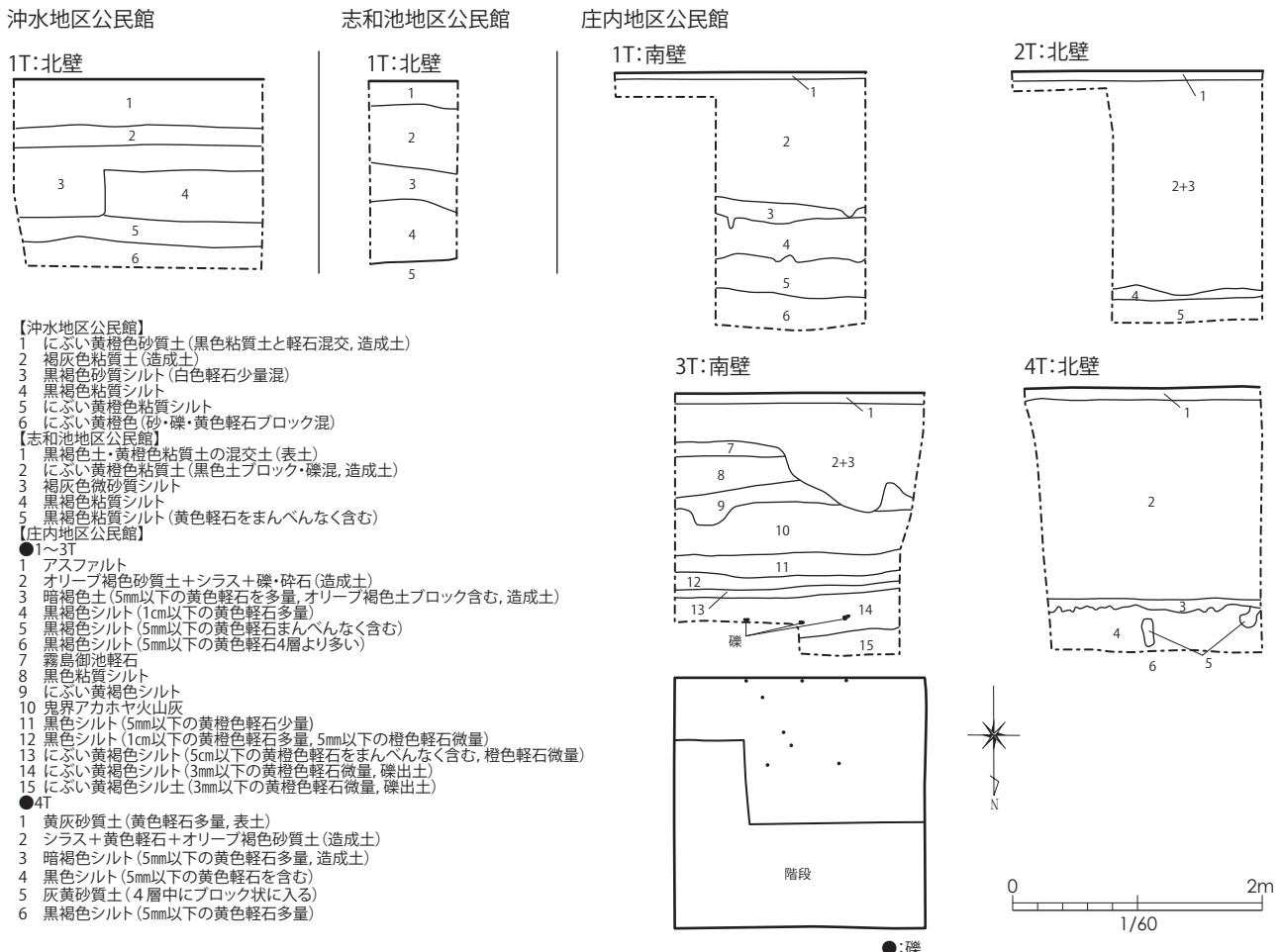


図 7. トレンチ土層・平面

5. 遺跡枠外（花木第3団地）

所在地 山之口町花木 2405-3

調査原因 市営住宅

調査期間 2018.5.16~17(再確認：5.29)

調査面積 12㎡（再確認：6㎡）

担当者 加覧淳一・外山亜紀子

調査後の措置 協議中

位置と環境 開発予定地は盆地の北東部、盆地東縁の山地帯（大谷山山地）とそのふもとに広がる開析扇状地面（山之口扇状地）との境界域に位置している。山地帯の裾部に沿って北東-南西に細長く形成されたこの境界域は、丘陵地・シラス台地面・成層シラス台地面・河岸段丘面・谷地形が複合し、起伏に富んだ地形となっている。開発予定地は山之口運動公園の南東側、北から南へゆるく下るシラス台地面に立地している。現況は花木第3団地である。

周辺域では東に一段下る峯元第1遺跡にて、縄文時代晩期の住居跡などが確認されている¹⁾。

調査の結果 確認調査・再確認調査合わせてトレンチ4箇所を設定し、重機・人力で掘り下げて地下の状況を確認した。

基本的な層序は造成土(1・2層)、旧表土(3層)、黒褐色土(4層)、霧島御池軽石(5・6層)、黒色土(7層)、鬼界アカホヤ火山灰(8・9層)、黒褐色土(10層)、桜島11テフラ濃集層(11a層)、にぶい黄褐色土(11b層)、褐灰色土(12層)となる。

2T・4層より縄文時代後晩期の土器小片が数点出土したのみであり、他のトレンチでは遺構・遺物は確認されなかった。

以上の点より、2T周辺にのみ、密度の希薄な縄文時代の遺跡が存在する可能性が高いと判断した。また、この結果に基づき「山之口佐土原遺跡」(縄文/散布地)として新規登録した。

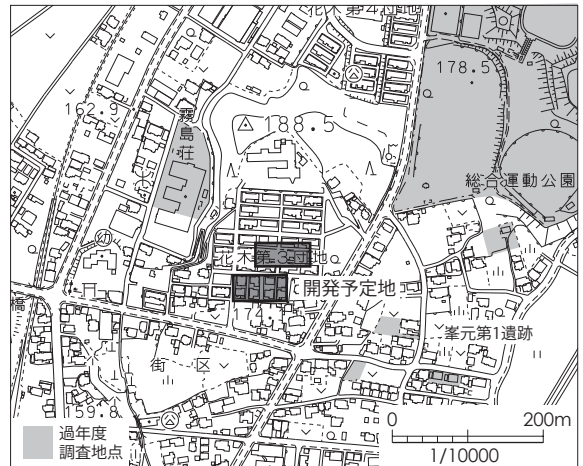


図1. 調査区位置

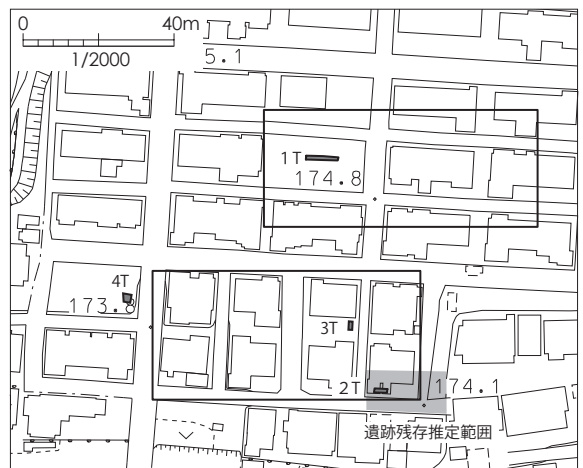


図2. トレンチ配置

1) 都城市教育委員会. 2018. 『都城市内遺跡 11』

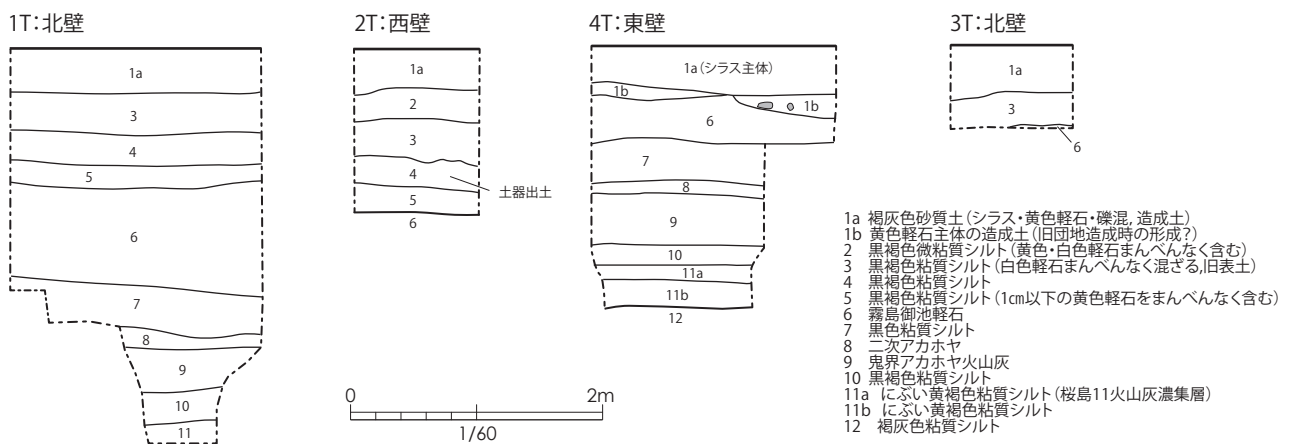


図3. トレンチ土層

6. 八幡城遺跡

所在地	五十町 1092 ほか	調査面積	38㎡（再確認・46㎡）
調査原因	宅地造成・個人住宅	担当者	原栄子・外山亜紀子
調査期間	2018.5.24~25（再確認 6.12~13）	調査後の措置	工事立会

位置と環境 開発予定地は盆地南西部に広がる成層シラス台地面（蓑原台地）の南東端、開析谷に面した台地端部に立地している。谷を挟んだ北東側には中世城郭「都城」が形成されている。当該地は八幡城遺と瀬戸ノ上遺跡との境界域にある。瀬戸ノ上遺跡では2013～2017年の確認調査にて、2013・2016年度は近世溝状遺構と掘建柱建物跡、2017年度は開発予定地に隣接する南北方向の道路に平行する非常に大規模な中世溝状遺構を検出している。なお、この南北方向の道路は、位置関係から文化・文政年間の編纂資料「庄内地理志」の「五拾町村絵図」

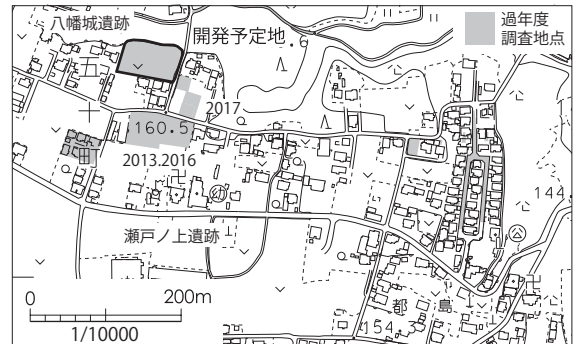


図1. 調査区位置

にある「道A」に推定され、近世期から続く道と考えられる。本開発では補助事業にて確認調査を実施したほか、市単独予算にて再確認調査、工事立会を実施した。再確認調査・工事立会共に本遺跡の理解のために必要な情報であるため、本項にて併せて報告する。

調査の結果 トレンチ9箇所を設定し、重機・人力にて掘り下げて地下の状況を確認した。層序は表土(1層)、桜島文明軽石(2層)、黒色土(3層)、黒褐色土(4層)、霧島御池軽石(5・6層)、黒色土(7層)、鬼界アカホヤ火山灰(8・9層)、黒色土(10・11層)、黒褐色土(12・13層)となる。

確認調査では、1Tで近世以降の溝状遺構・ピット、4Tにてピット、7Tで近世以降と考えられる硬化面、8T・9Tにて溝状遺構を検出した。遺物は2T・3層にて中世土師器片、近世播鉢等が出土している。再確認調査トレンチは1T・7T・2Tの間に設定した。南北にのびる溝状遺構(SD1)、ピットを検出した。

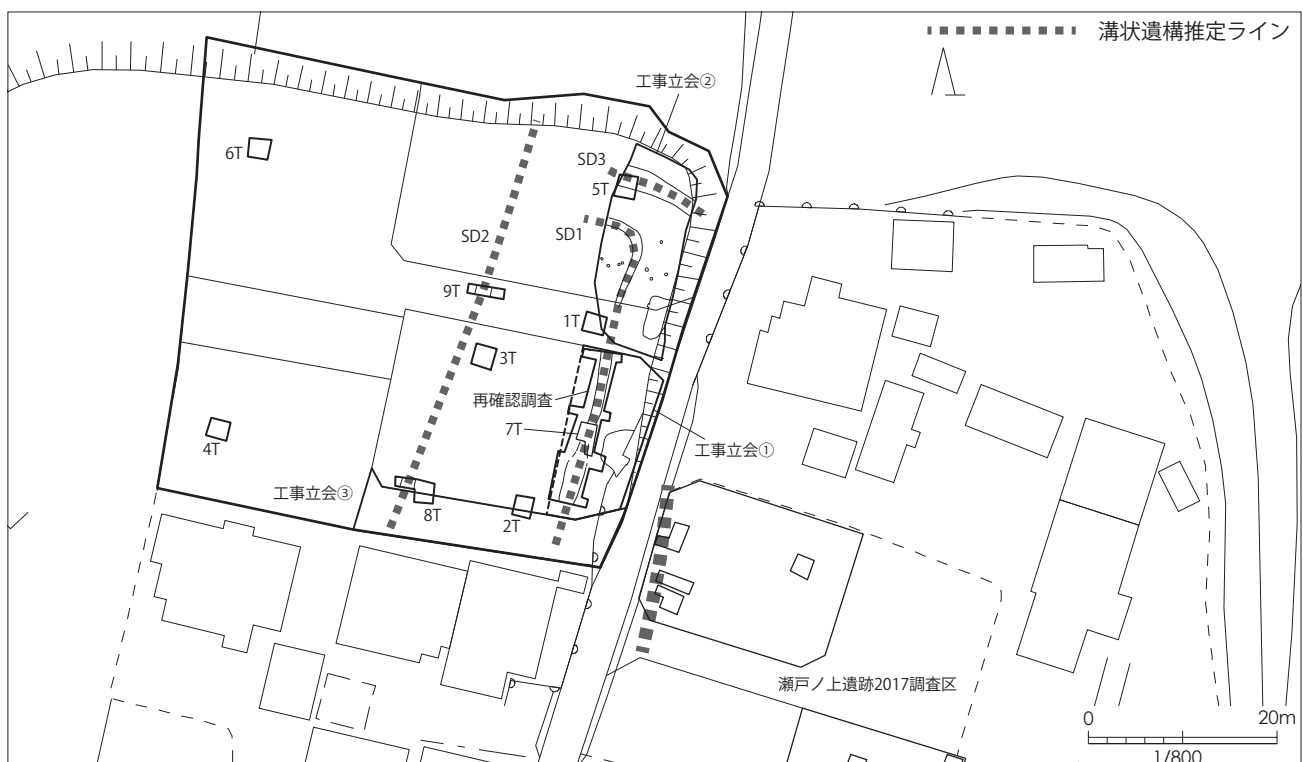


図2. トレンチ配置

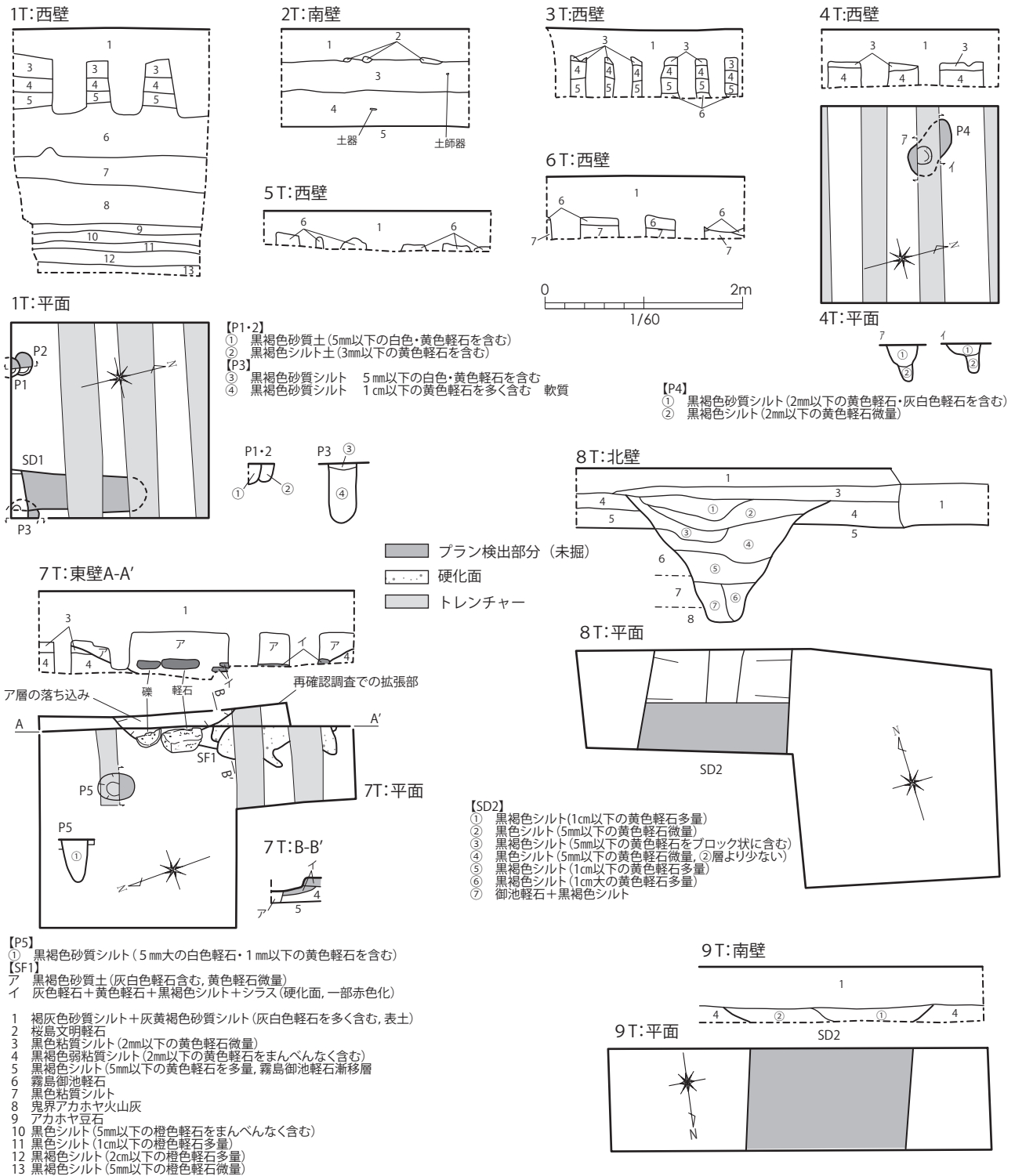


図 4. 確認調査トレンチ土層・平面

SD1 からは 18 世紀代の薩摩焼碗底部や播鉢が出土した。以上の結果より、開発予定地には中世・近世の遺跡が存在する可能性が高いと判断した。

工事立会は① 8 月 21 日、② 10 月 25・26 日、③ 平成 31 年 2 月 12 日に行った。①・②では遺構を確認したため、工事を一時中断し、調査・記録を実施した。①では底面に硬化面をもつ不整形な落ち込み (SX2)、②では直角に屈曲する浅い溝状遺構 (SD1)、東西方向の溝状遺構 (SD3)、ピット等を検出した。SD1 は位置関係より再確認調査 SD1 との接続が考えられる。SD3 は一部が二段掘りとなる非常にしっかりとした溝状遺構であり、天目椀 (3) が出土した。P8・10・11・14 は直列しており、柵列の可能性がある。P6 から天目椀 (4) が出土した。③では掘削は表土中に留まり、遺構・遺物は確認されなかった。

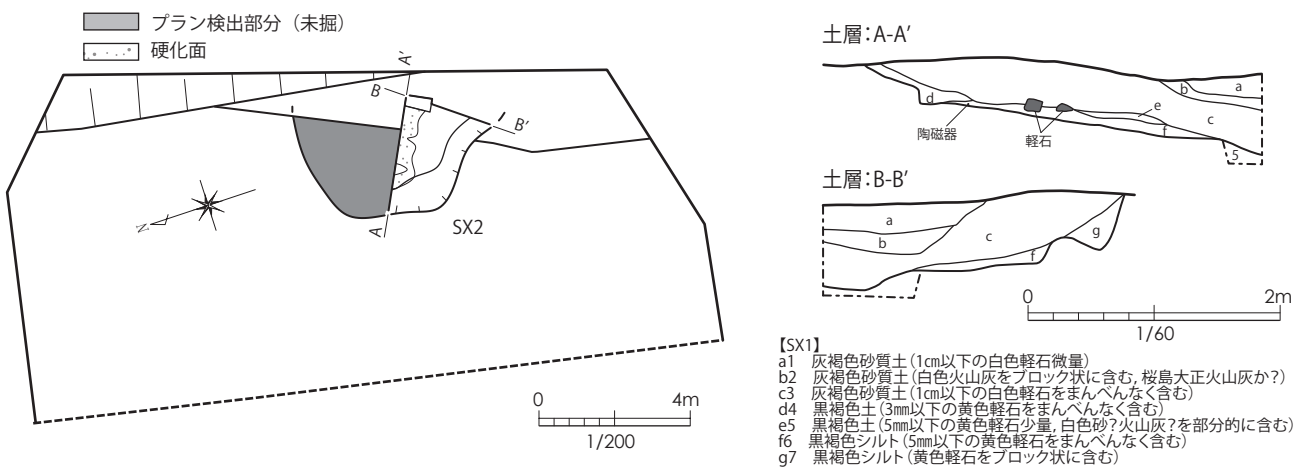
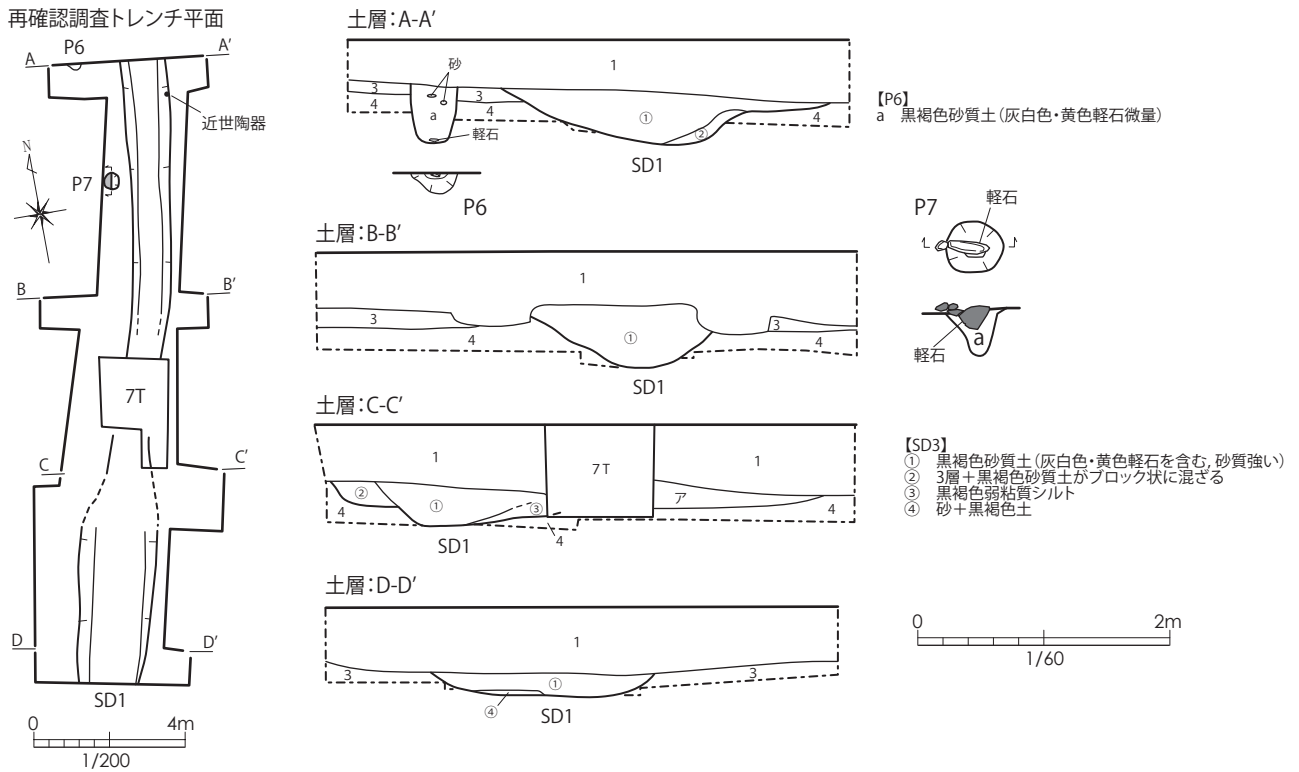


図 4. 再確認調査・工事立会①トレンチ土層・平面



図版 1. 五拾町村絵図(部分): 庄内地理志(巻 65)
(都城島津伝承館蔵)



図版 2. 遠景(南西から開発予定地・都城跡を望む)

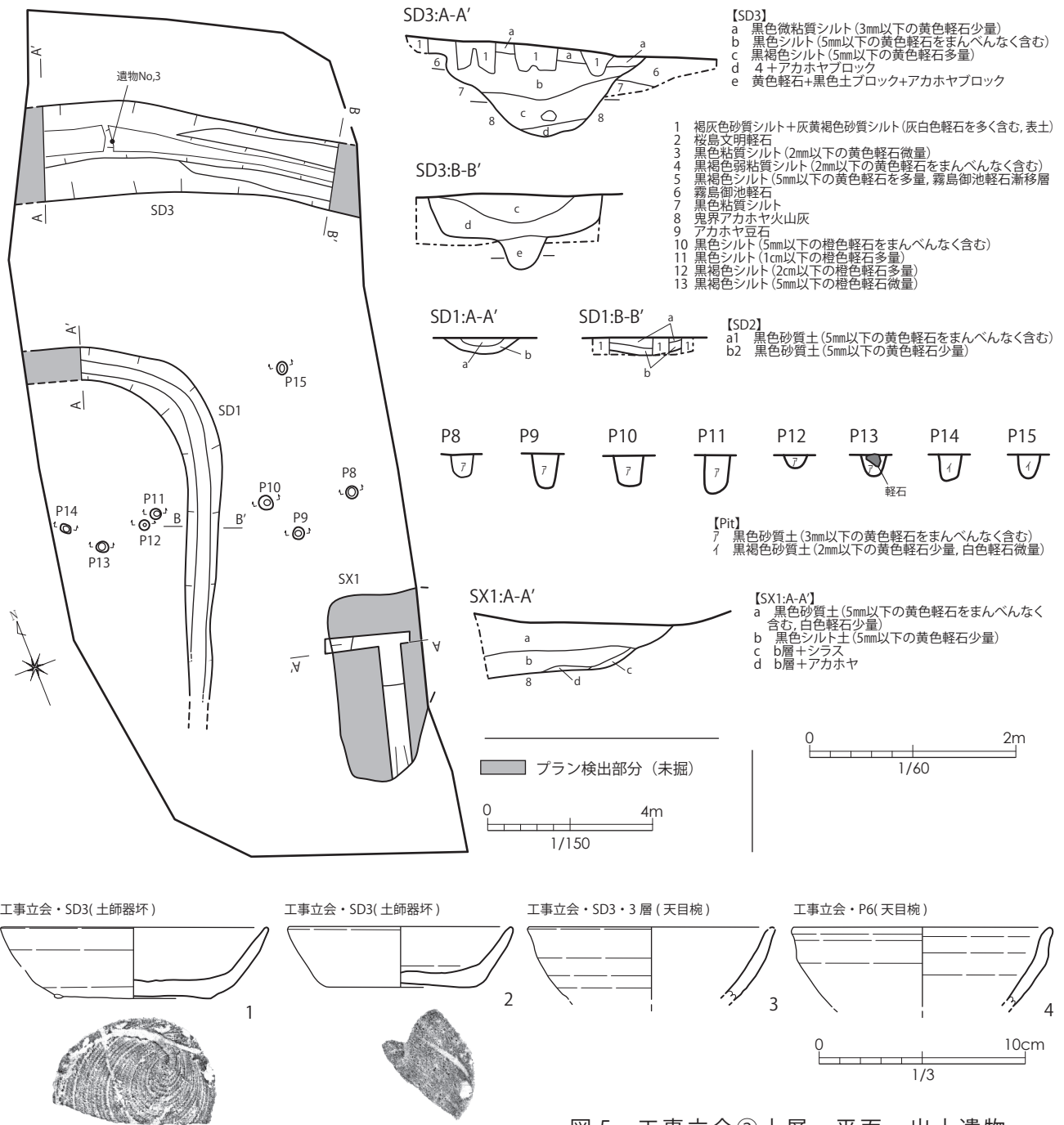


図 5. 工事立会②土層・平面・出土遺物



図版 3. 工事立会② (真上から・上が東)



図版 4. 工事立会② : SD2 (西から)

7. 白拍子遺跡

所在地 郡元町 2688-3 ほか
 調査原因 不動産鑑定
 調査期間 2018.8.1
 調査面積 35㎡

担当者 近沢恒典・原栄子・
 下田代清海
 調査後の措置 現状保存

位置と環境 開発予定地は盆地底南半に広がる開析扇状地面（一万城扇状地）の北縁部に位置している。周辺には非常に細い道と宅地・畑地が入り組んでおり、近世以来の地割を残している。現況は畑地・宅地・竹林である。開発予定地の南に隣接する道路拡幅事業では、近世の道路状遺構と近世陶磁器類が確認されている。

調査の結果 トレンチ 8 箇所を設定し、重機・人力にて掘り下げて地下の状況を確認した。

基本的な層序は表土（1 層）、桜島文明軽石（2 層）、黒色土（3 層）、黒褐色土（4 層）、霧島御池軽石（5・6 層）となる。4～6 層で遺構検出を行った。

2T・5T～7T では南北方向にのびる溝状遺構（SD1）を検出した。検出面での幅約 1 m、検出面からの深さ約 0.8 m。断面形は緩やかな U 字状で東壁の方が傾斜がやや緩い。埋土上位には多量の桜島文明軽石（a 層）が堆積していた。遺物は出土していないが、桜島文明軽石の堆積より、中世期の可能性が高いと考えた。5T では SD1 と重複する東西方向にのびる溝状遺構（SD3）を検出した。近代遺物の出土と埋土に桜島大正火山灰（d 層）を含む点より近代遺構とした。3T では幅約 1.6 m、深さ約 1 m の南北方向にのびる溝状遺構（SD2）を検出した。断面形は端正な V 字状である。備前焼甕片が出土しており中世遺構と把握した。6T・7T では埋土中に白色粘土層を含む土坑を検出した。平面形は直径約 1.2 m の円形である。18 世紀以降の薩摩焼が出土しており、近世遺構と考えられた。8T では幅約 0.8 m、深さ約 0.4 m の南東 - 北西方向にのびる溝状遺構（SD4）を検出した。遺物はなく、時期不明である。

以上の結果より、開発予定地には中央より東側を中心に、中世から近代にかけての遺跡が存在している可能性が高いと判断した。



図版 1. 6T：SD1（西から）



図 1. 調査区位置

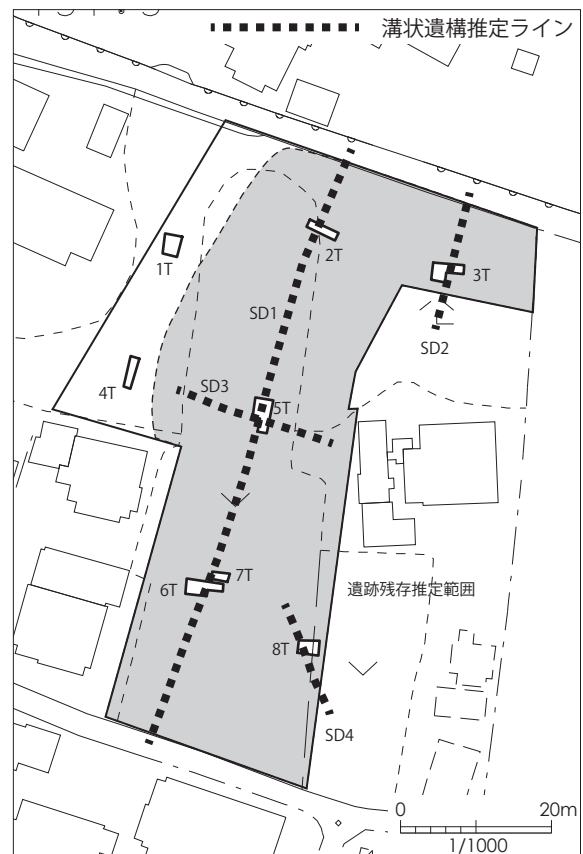
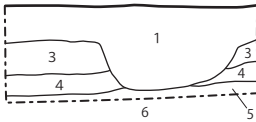
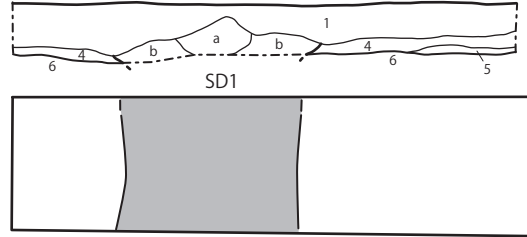


図 2. トレンチ配置

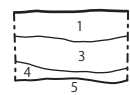
1T:北壁



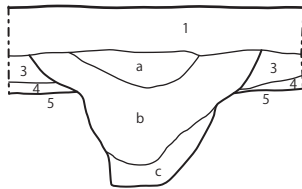
2T:北壁



4T:南壁



5T:北壁

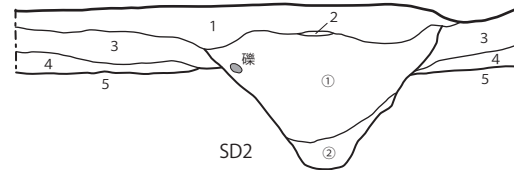


【2T・5T:SD1】

- a 白色軽石(黒色土混, 桜島文明軽石)
- b 黒色シルト(5mm以下の黄色軽石微量)
- c 黒色シルト(5mm以下の黄色軽石ごく少量)
- d 桜島大正火山灰
- e 褐灰色砂質土(1mm以下の黄色軽石ごく微量)

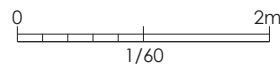
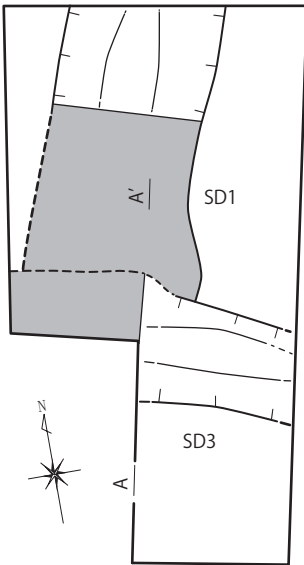
- 1 黒褐色砂質土(竹根・樹根多量, 表土)
- 2 白色軽石(桜島文明軽石)
- 3 黒色砂質シルト(5mm以下の黄色軽石微量)
- 4 黒褐色砂質シルト(5mm以下の黄色軽石ごく少量)
- 5 暗褐色シルト(5mm以下の黄色軽石多量, 霧島御池軽石漸移層)
- 6 霧島御池軽石

3T:北壁



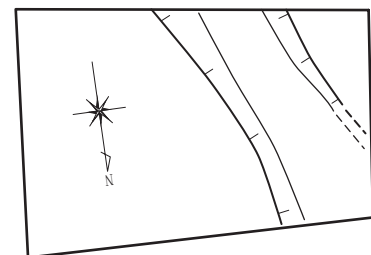
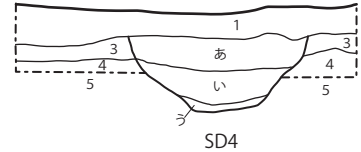
【3T:SD2】

- ①: 黒色シルト(1cm以下の黄色軽石少量, やや軟らかい)
- ②: 黒色シルト(1cm以下の黄色軽石やや多, しまり強)



■ プラン検出部分 (未掘)

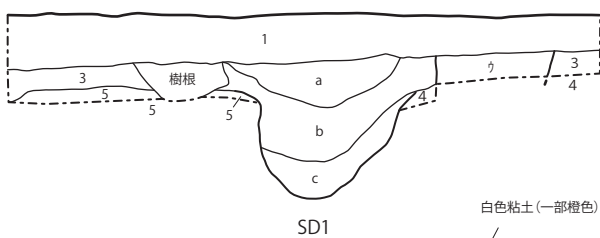
8T:南壁



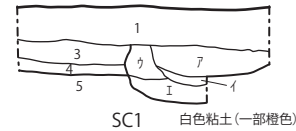
【8T:SD4】

- あ 黒褐色砂質土(1cm以下の黄色軽石をまんべんなく含む, 軟質)
- い 黒褐色砂質土(5mm以下の黄色軽石少量)
- う 黒褐色砂質土(1cm以下の黄色軽石多量)

6T:北壁



7T:南壁



【6T・7T:SC1】

- 7: 褐灰色砂質土(5mm以下の黄色・白色軽石ごく微量)
- イ: 白色粘土(一部橙色)
- ウ: 黒色シルト(1cm以下の黄色軽石少量, 黒色土と黄色軽石の互層)
- エ: 黒色シルト(1cm以下の黄色軽石ごく少量, 黒色土と黄色軽石の互層)

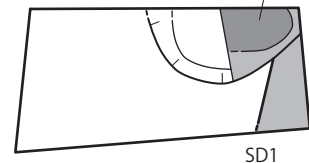
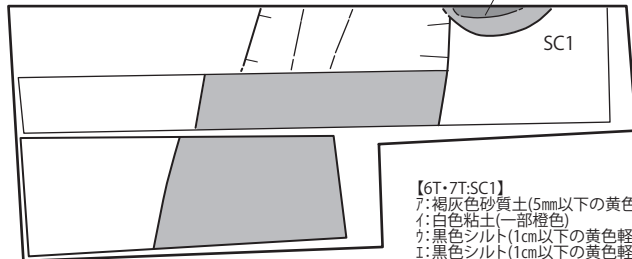


図 3. トレンチ土層・平面

8. 宮崎県指定史跡 高城町古墳 (19号)

所在地 高城町有水 2833-2
 調査原因 墳丘保全
 調査期間 2018.8.16~24
 調査面積 24㎡

担当者 栞畑光博・福添暁久・
 加覧淳一・原栄子
 調査後の措置 現状保存

位置と環境 開発予定地は盆地の北東部、大淀川左岸に展開するシラス台地・成層シラス台地群内(田辺-有水台地群)に位置し、有水川を見下ろす標高約143 mの尾根状地形の南端頂部付近に立地している。北・東側は成層シラス台地面が続き緩やかに北へ下るが、西・南側は大きく下り、有水川沿いの河岸段丘面に接続する。1935年7月2日に円墳として宮崎県指定史跡となった。現在は畑・宅地・進入路・市道によって周囲を削られ、いびつな平面形となっている。周辺には西に少し下った面に県指定古墳(20号)が立地している。

調査の結果 今回の調査は、民家への進入路に面している古墳法面の崩落防止を目的とした養生シート設置に起因する。調査の方法は、養生シート設置面の精査及び記録と周溝確認のためのトレンチ調査である。

トレンチにおける層序は表土(1層)、霧島新燃享保軽石(2層)、周溝埋土(3~9層・5層:霧島高原スコリア)、SC1(10~12層)、墳丘盛土(15層)、黒色土(16層)、霧島御池軽石(17層)、黒色土(18層)となる。

1Tで確認された周溝は、幅約5 m、墳丘盛土最下層(15層)からの深さ約1 mであった。断面形態は緩い弧状で、埋土上部には霧島火山起源の歴史時代のテフラ(5層)が堆積していた。周溝の西端部において、周溝から墳丘下へと続く黒色土の落ち込み(SC1)を検出した。位置と形状より、周溝端部から墳丘下に向けて構築された地下式横穴墓と考えられる。

墳丘は進入路の路面から墳丘面までが、高さ約2 mのほぼ垂直な法面(壁面)となっている。法面の精査から、墳丘が霧島御池軽石(5層)上の黒色土層(3層)上面に構築されていることがわかる。墳丘形成土は3層起源と考えられる黒色弱粘質シルトが主体となるルーズな土(2層)であった。黄橙色軽

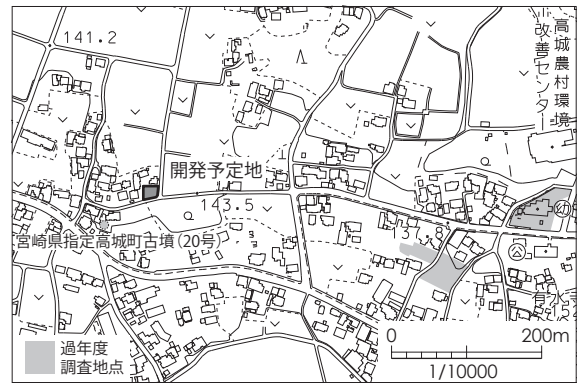


図1. 調査区位置



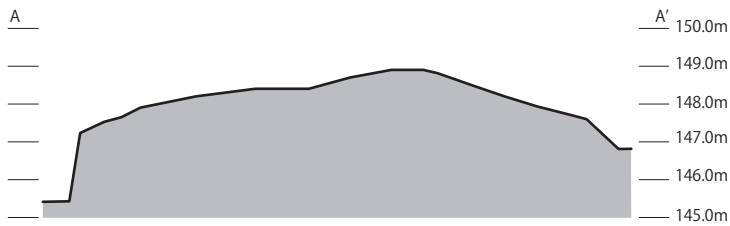
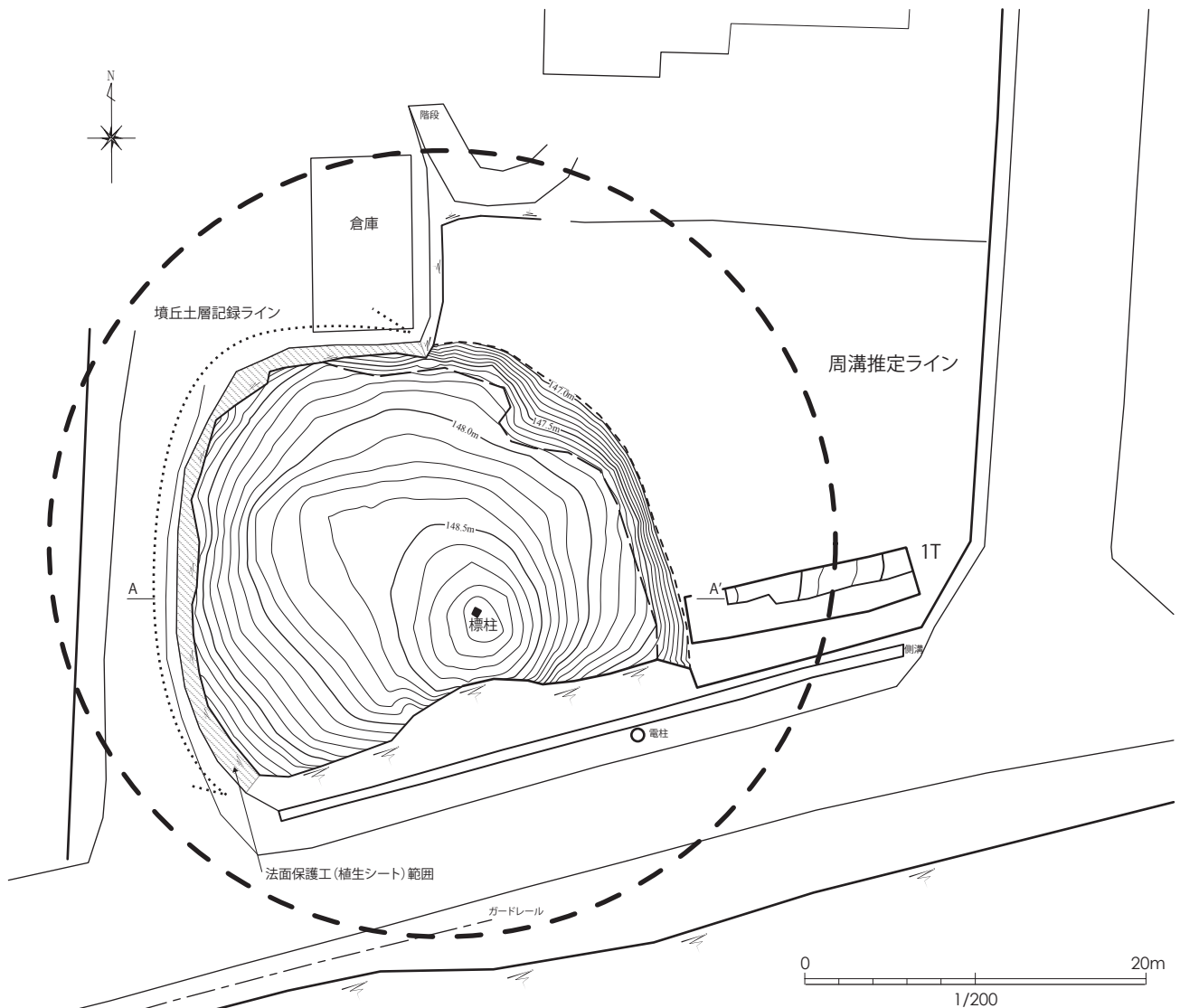
図2. トレンチ配置



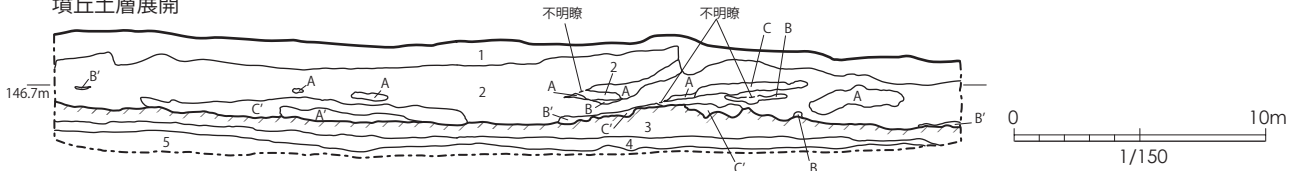
図版1. 空中写真(真上から・上が北)



図版2. 周溝土層断面:(西から)



墳丘土層展開



- 1 暗褐色～黒褐色砂質土(3mm以下の黄橙色軽石・5mm以下の礫含む, 上面に1cm以下の浅黄色軽石と1cm以下の暗褐色スコリア粒散乱, 全体的に植物根による擾乱が著しい)
 - 2 黒色弱粘質シルト(1cm以下の黄橙色軽石含む, 所々に2cm以下の黄橙色軽石を含む箇所あり, 上半部は植物による擾乱著しい, 本来は小さな盛土ブロックの単位が存在するはずだが, 根等による擾乱のため, 把握が困難)
 - 3 黒色弱粘質シルト(1cm以下の黄橙色軽石含む)
 - 4 暗褐色シルト(1cm以下の黄橙色軽石多量, 霧島御池軽石漸移層)
 - 5 2cm以下の黄橙色軽石(5mm以下の岩片少量, 霧島御池軽石)
- A 黒色弱粘質シルト(2cm以下の黄橙色軽石を2層より多く含む, 粒が揃っていない)
 B 黒色弱粘質シルト(2cm以下の黄橙色軽石多量)
 C 2cm以下の黄橙色軽石を主体, 黒褐色弱粘質シルトを少量含む
- 固くしまる

図3. 墳丘平面・断面・土層

石の含有量等により一部は細分できたが、植物擾乱等の影響が大きく盛土ブロックの単位を明確にすることはできなかった。3層と墳頂部との比高差と周溝円周復元より、径17m、高さ3m以上の墳形が推定された。遺物は須恵器甕片が周溝1層より1点出土し、5点をトレンチ周辺で表採した。1～4は胴部片で外面調整には平行タタキ(1・2)、格子目タタキ(3・4)があり、内面は丁寧なナデである。5・6は同一個体と考えられる頸部付近で、外面は格子目タタキを丁寧にナデ消している。TK216にあたると考えられる¹⁾。以上の点より、本古墳の形状としては、墳径17m、周溝幅5m、地下式横穴墓を伴う円墳が考えられた。また、出土状況が不安定ではあるが、遺物の時期は5世紀前半を示している。

1) 甲斐康大氏(延岡市教育委員会)の御教示による。

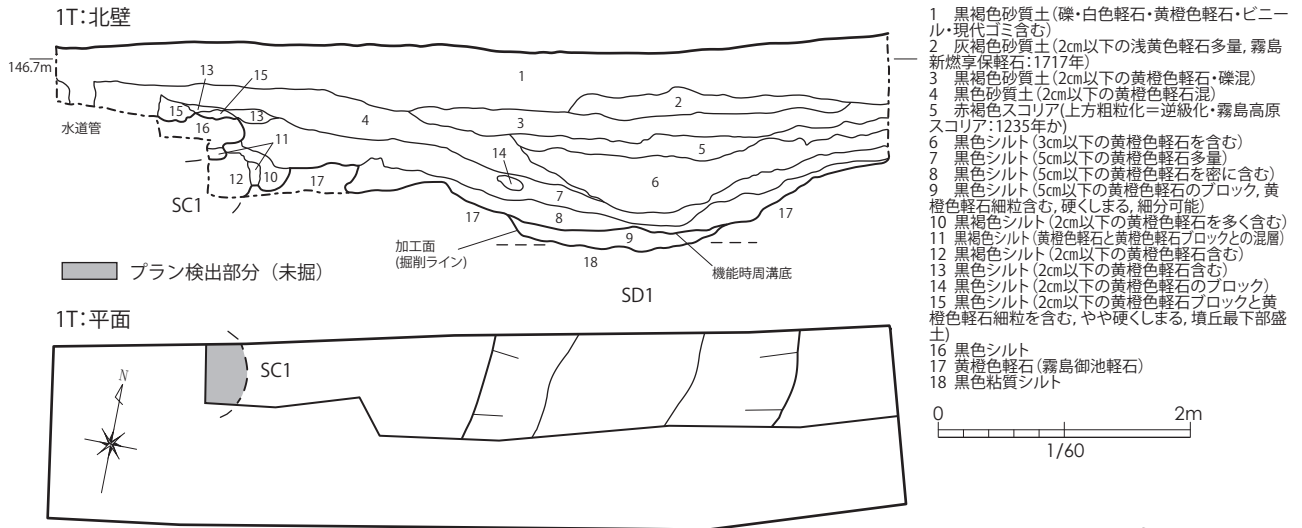


図4. トレンチ土層・平面

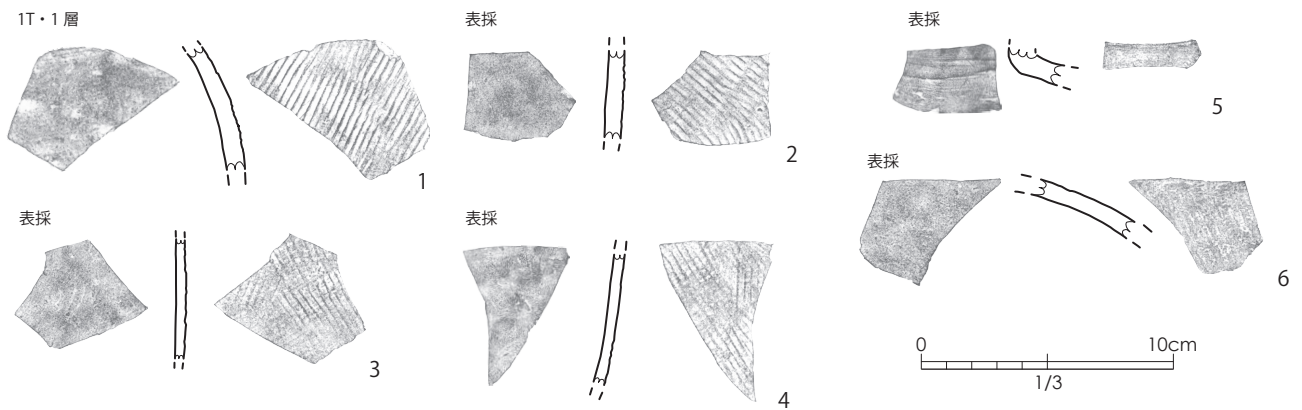


図5. 出土遺物



図版3. SC1(東から)



図版4. 墳丘土層(北西部)

9. 都城跡（中之城）

所在地 都島町 863-1 ほか
 調査原因 不動産鑑定
 調査期間 2018.9.11

調査面積 6㎡
 担当者 加覧淳一
 調査後の措置 協議中

位置と環境 開発予定地は盆地底南西部に広がる成層シラス台地面（蓑原台地）の南東端に形成された中世城郭「都城」内に位置している。「都城」はシラス台地の端部を空堀によって分割し曲輪を構築した「群郭式城郭」¹⁾であり、大淀川を背後にした本丸から西へと城域を展開させる。

開発予定地は中之城の北西端にあり、西側の外城との間にある直線的な空堀「馬乗馬場」との境界付近と考えられる。中之城の曲輪内では、1972年に発掘調査、1996年・2005年に確認調査を実施している^{2)・3)}。1972年の調査では幅10m以上の大規模な道路状遺構のほか、多数の建物跡、石組み列等を検出している。1996年の調査区は曲輪南端部にあたり、幅15mの堀状遺構と、それを版築で埋めて地上げしていく過程で構築された石畳を伴う石組み井戸を検出している。

調査の結果 トレンチ1箇所を設定し、重機・人力にて掘り下げて地下の状況を確認した。

基本的な層序は表土（1層）、二次シラス（2層）、シラス（3層）となり、大規模な削平が認められた。遺構・遺物は確認されなかった。国土地理院の空中写真では、1948～1965年の間に地形が変化している様相がみてとれ、その期間中の破壊と考えられた。

以上の結果より、開発予定地に遺跡が存在する可能性は低いと判断した。

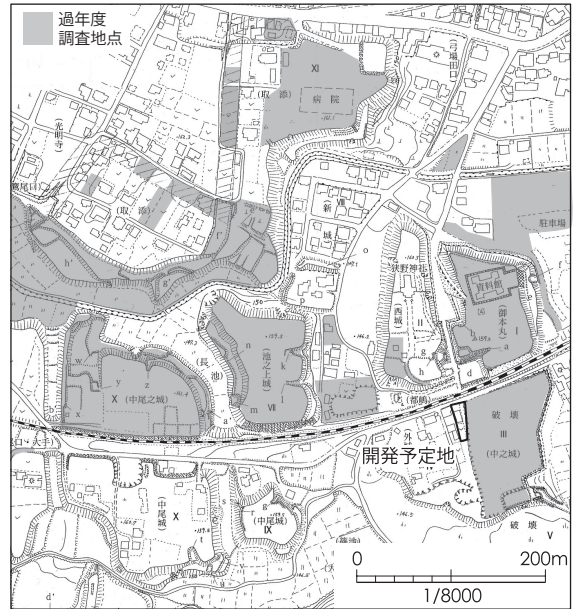


図1. 調査区位置（八巻1991に加筆）

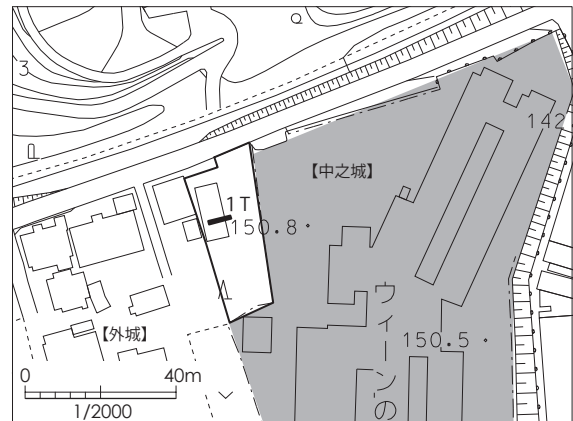
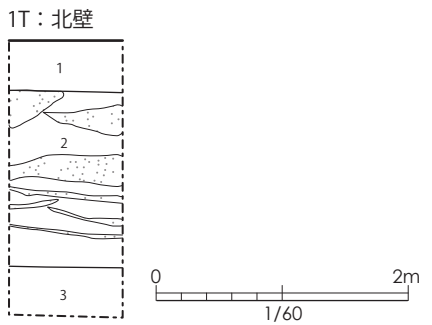
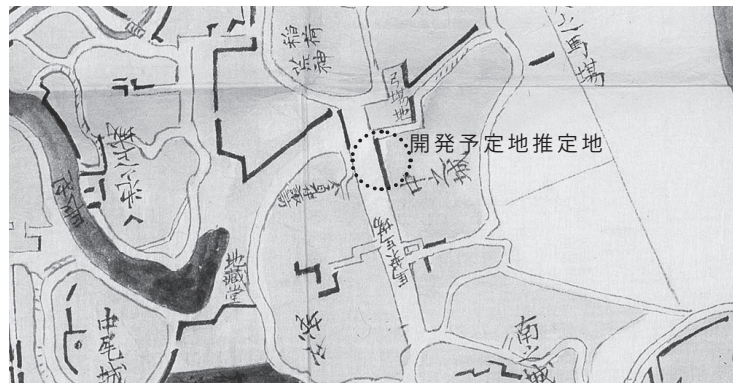


図2. トレンチ配置



- 1 黒褐色粘質土+白色粘土+灰白色砂(造成土)
- 2 灰白色砂・黄橙色軽石・白色軽石(互層状,シラス二次堆積)
- 3 シラス

図3. トレンチ土層



図版1. 都城絵図（都城島津伝承館蔵）

10. 犬王遺跡

所在地 山之口町富吉 6483-2 ほか
 調査原因 畑地かんがい事業「高才第3地区」
 調査期間 2018.11.27

調査面積 24㎡
 担当者 近沢恒典・下田代清海
 調査後の措置 協議中

位置と環境 開発予定地は盆地の東縁部、富吉川の上流域に形成される開析扇状地面（富吉扇状地）に位置している。今回の調査区は扇状地面の北東部にあり、西にのびる谷地形の谷頭部へと下る斜面の上位部分に立地している。周辺域では畑地かんがい事業に伴う一連の確認調査で、縄文・弥生・古代の遺跡を確認している。

調査の結果 トレンチ4箇所を設定し、重機・人力にて掘り下げて地下の状況を確認した。

基本的な層序は耕作土(1層)、黒色土(4層)、褐色土(5層)、霧島御池軽石(6・7層)、黒色土(8層)、鬼界アカホヤ火山灰(9層)、黒色土(10層)、黒褐色～暗褐色土(11層)、暗褐色土(12層)、褐色土(13層)となる。層番号は一連の調査における基本土層に従っているため、当該地においては欠如している層もある。

1Tでは7層上面にてピット2基(P1・2)を検出した。埋土中より古代土師器片が出土している。2Tでは4・5層より縄文土器片・古代土師器片が出土した。

以上の結果より、開発予定地の一部には縄文時代・古代の遺跡が存在する可能性が高いと判断した。

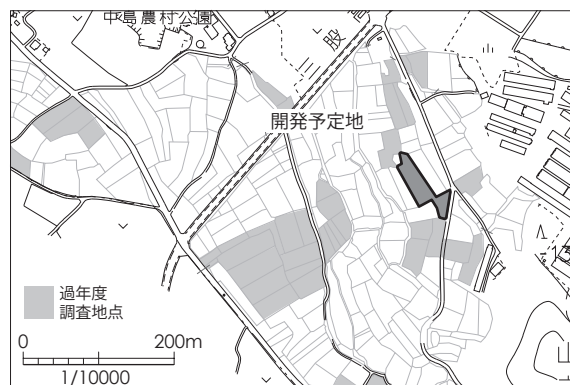


図1. 調査区位置

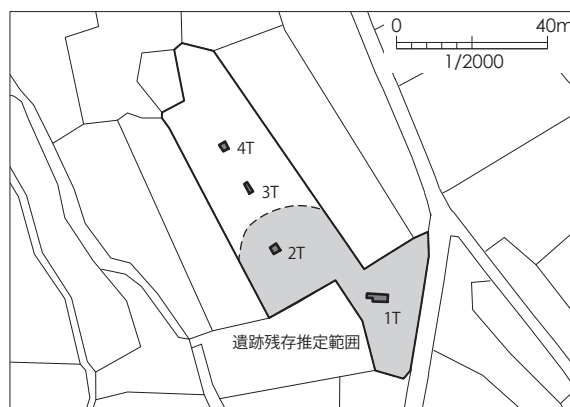


図2. トレンチ配置

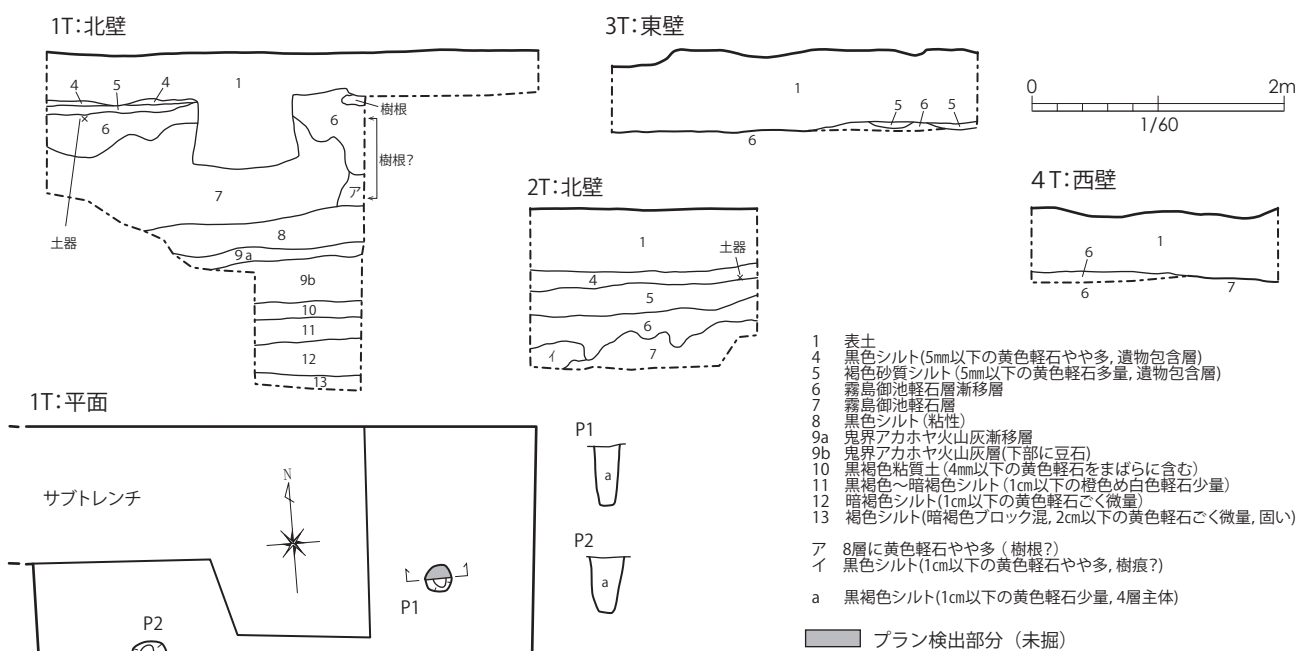


図3. トレンチ土層・平面

11. 遺跡枠外（下川東四丁目）

所在地	下川東四丁目 4037 ほか	担当者	近沢恒典・加覧淳一・ 下田代清海
調査原因	公園造成	調査後の措置	協議中
調査期間	2018.12.12~13		
調査面積	85m ²		

位置と環境 開発予定地は盆地のほぼ中央、大淀川・沖水川・横市川の合流点南東の河川氾濫原面に立地している。現況は水田である。東側の中尾下遺跡¹⁾では、2008年の調査にて古代建物跡や近世水田が確認され、多量の古代遺物が出土している。

調査の結果 開発予定地にトレンチ 15 箇所を設定し、重機・人力で掘り下げて地下の状況を確認した。

基本的な層序は表土(1層)、旧耕作土(2層)、造成土・洪水堆積(3・4層)、桜島文明軽石(5層)、黒色土(6層)、霧島御池軽石(7層)、黒色土(8層)、鬼界アカホヤ火山灰(9・10層)、黒褐色～黒色シルト(11・12層)、白色軽石(13層)、黒褐色～暗褐色シルト(14・15層)、砂・砂礫層(洪水堆積 a1～a9層)となる。

1～3T・5～10T・15Tでは、1層下が複数の砂層を挟む旧耕作土層・造成土層(2・3層)、砂礫層(a6層)となっていた。7T・3a層出土の近現代磁器片より、近現代以降に造成された耕作地と考えられる。

東側の4T・11～14Tでは、7層や10層等の台地的な堆積となる。中尾下遺跡と同様な河川氾濫原面の残丘地形と考えられる。土層断面からは東→西、北→南へ下る地形が推定される。11・12Tでは1層直下が上部を削平された7層となっていた。11Tの西側では大きな落ち込み(SX)を検出した。土層断面の観察では上位のSX1と下位のSX2に分けられ、SX1は埋土主体が2層であることより近現代以降の水田遺構と考えられる。SX2は非常に深いV字状断面の大型溝状遺構の可能性はあるが、西側端が検出できていないため、詳細な形状・用途は不明である。4Tではラミナ状の砂の混じる洪水堆積と造成土層(4・6層)より多量の古代・中世の遺物が出土した。13Tでは5層に覆われた中世水田跡を検出した。その下は古代遺物を多量に含む黒色土層(6層)となる。4Tと同様、一部にラミナ状の砂の堆積があり洪水の影響が想定される。14Tではa6層の下が中世遺物を含む造成土層(4層)となっていた。

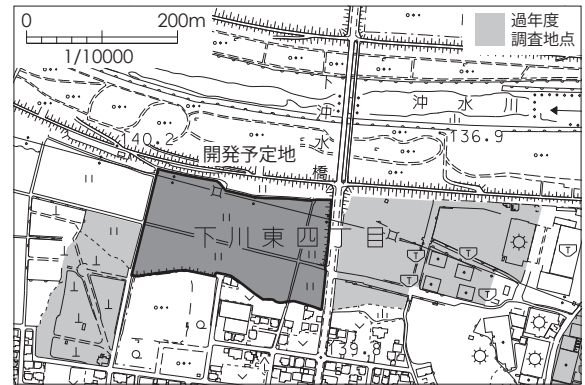


図1. 調査区位置

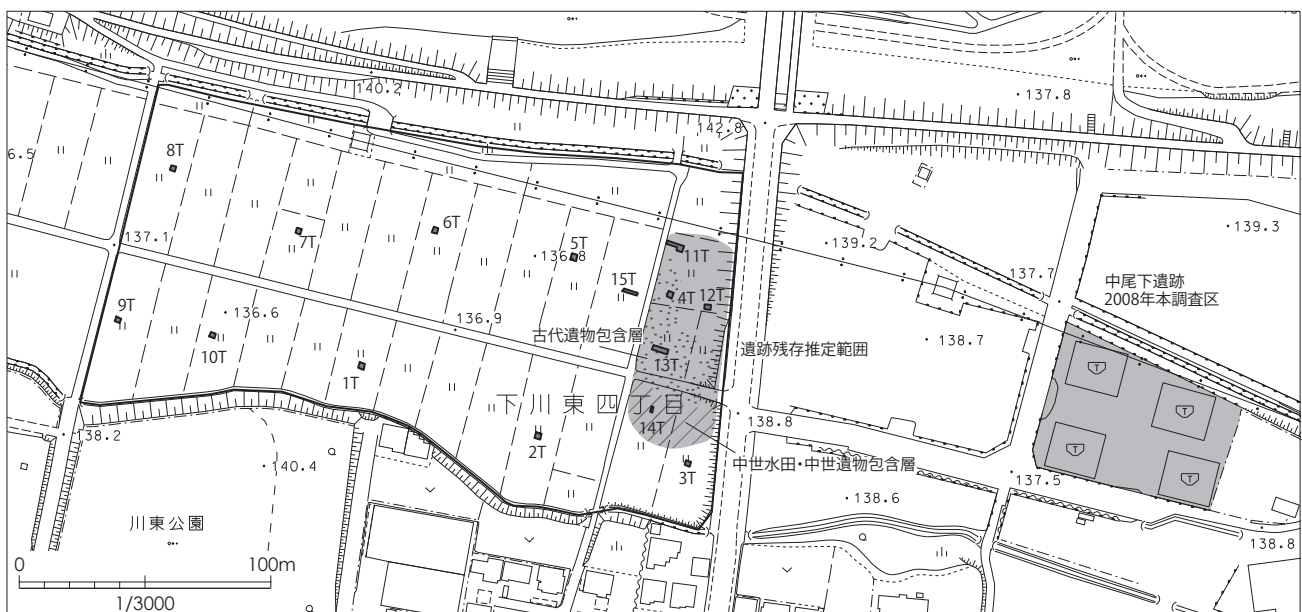


図2. トレンチ配置

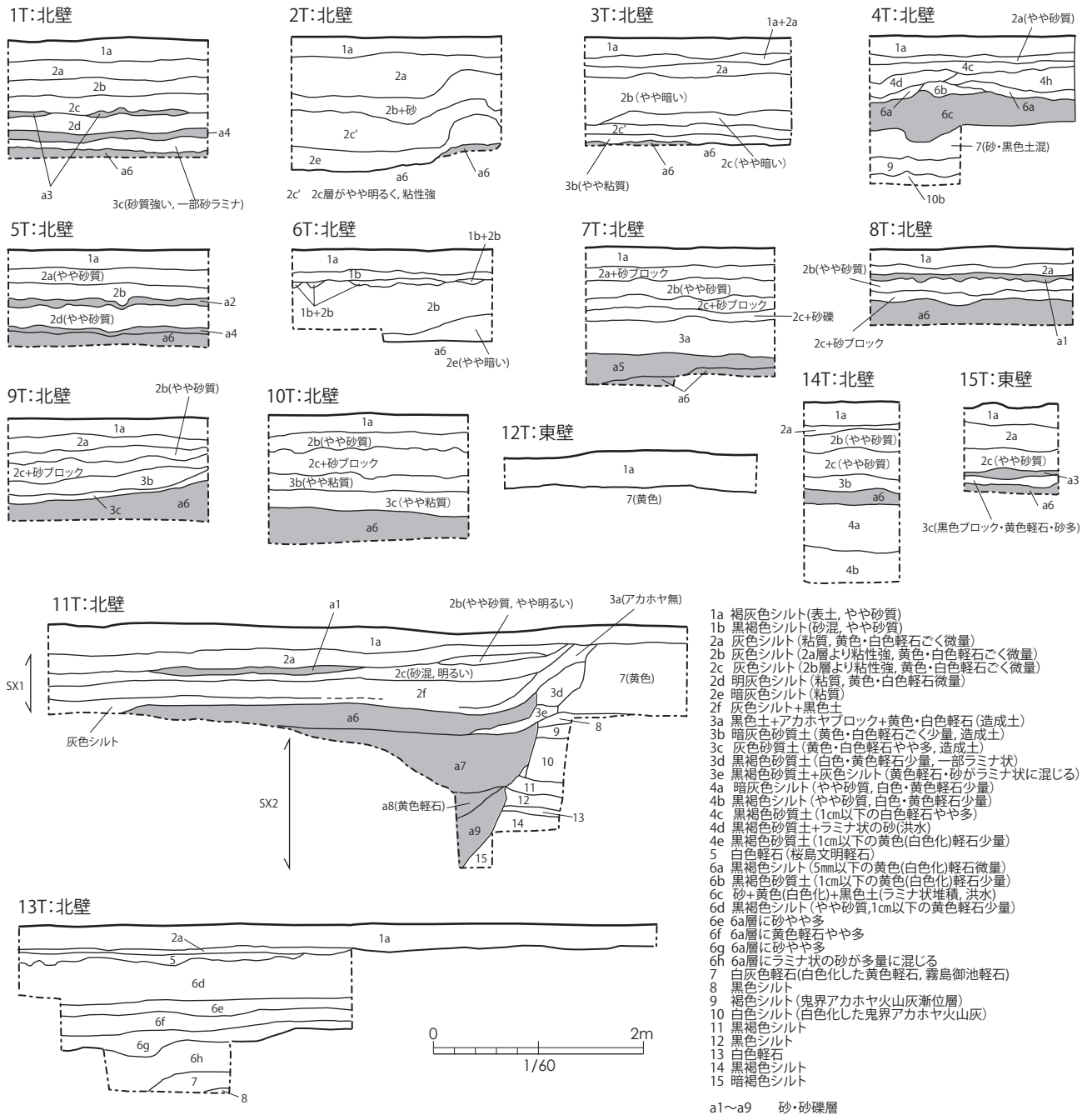


図3. トレンチ土層

以上の点より、開発予定地の大部分は近現代以降に水田化が進められた区域と考えられ、東側の残丘面については頂部の削平が進むものの、周囲の氾濫原面に下る部分においては、古代～中世遺物包含層及び中世水田を主体とする遺跡が存在する可能性が高いと判断した。

また、この試掘結果に基づき遺跡残存推定範囲を「中尾下第2遺跡」(古代・中世/散布地・生産遺跡)として登録した。

1) 都城市教育委員会. 2010. 『中尾下遺跡』



図版1. 11T: SX1・2 (南から)

12. 遺跡枠外（都城西飛行場跡）

所在地 都原町 7427

調査原因 道路改良（市道・鷹尾都原線）

調査期間 2018.12.25

調査面積 6㎡

担当者 加覧淳一・外山亜紀子

調査後の措置 協議中

位置と環境 開発予定地は盆地南西部に広がる成層シラス台地面（箕原台地）に立地する。現況は宮崎県立さくら聴覚支援学校である。周辺域は都城西飛行場の建物群推定域にあたる。都城西飛行場は1942年に逓信省管轄の航空機乗員養成所として開設され、1944年に陸軍に接收された。1945年4月からは沖縄への特攻機が出撃したが、米軍の空襲も激化し、ほどなく使用不能となっている¹⁾。

調査の結果 トレンチ3箇所を設定し、重機・人力で掘下げて地下の状況を確認した。

基本的な層序は、表土（1層）、造成土（2～6層）、黒褐色土（7層）、霧島御池軽石（8・9層）となる。

いずれのトレンチでも厚い造成土が堆積しており、造成土中からは、近現代陶磁器、ガラス瓶、コンクリート片等が出土した。近代～現代（戦後）の遺物が混在しており、戦時中の造成土と特定可能な層は確認できなかった。遺構は検出されていない。

以上の点より、開発予定地において、都城西飛行場関連遺構を含め、遺跡が存在する可能性は低いと判断した。

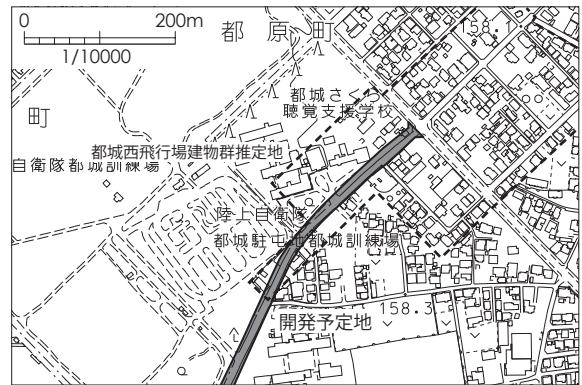


図1. 調査区位置

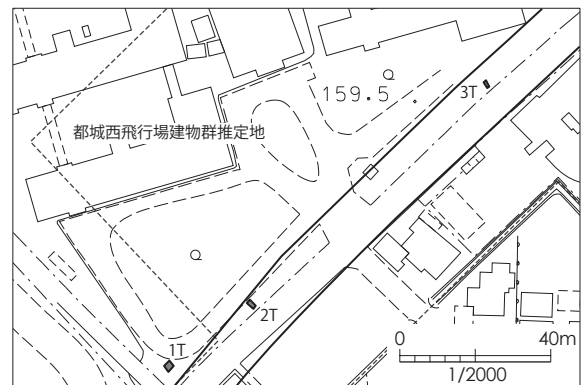
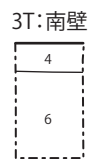
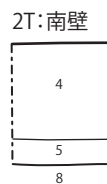
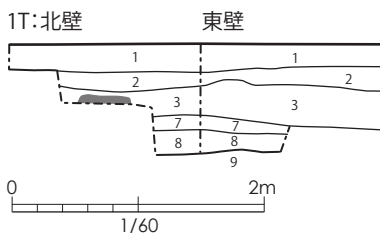


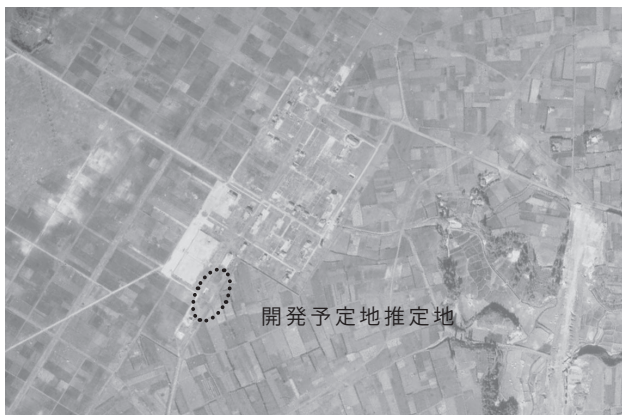
図2. トレンチ配置

1) 都城市. 2006. 『都城市史 通史編 近現代』



- 1 シラス+礫(表土)
- 2 黒色土+白色・黄色軽石ブロック(固くしまる, 造成土)
- 3 黒褐色土+黄色・白色軽石(コンクリート片混, 造成土)
- 4 シラス主体造成土
- 5 黒褐色土(ガラス瓶・陶磁器・灰混, 造成土)
- 6 黒褐色砂質土(造成土か)
- 7 黒色シルト
- 8 黒褐色シルト(御池軽石漸移層)
- 9 霧島御池軽石

図3. トレンチ土層



図版1. 1948年空中写真（国土地理院）



図版2. 1T（西から）

13. 郡元西原遺跡範囲確認調査

所在地 郡元町 3337 ほか
調査原因 遺跡範囲確認
調査期間 2018.10.29~12.25

調査面積 113m²
担当者 近沢恒典・下田代清海

位置と環境 郡元西原遺跡は盆地底南半に広がる開析扇状地面（一万城扇状地）に立地する。現況は平坦な宅地である。本遺跡の所在する郡元町は、万寿年間（1024～28）の成立とされる島津荘の成立拠点域と推定される地域である。

本範囲確認調査は、道路事業に伴い2016年度上半期に実施した郡元西原遺跡（第2次調査）¹⁾で検出した大型溝状遺構（大溝・SD1）に起因する。この大溝は幅約4m、検出面からの深さ約2m、断面形は端正な逆台形、平面形は調査区内でほぼ90°屈曲し、屈曲部から北北東（以下、南北ラインと記載）・南東南（以下、東西ラインと記載）の両方向へと伸びる。周囲の歴史的環境を考慮すると、東側を区画内とする大規模な圍繞施設の可能性と共に、島津荘の現地経営にかかわる性格を有する可能性も想起され、大溝の範囲及び東側（区画内）の状況確認を目的とする範囲確認調査を2016年下半年より継続的に実施することとなった。2017年度までの調査にて、大溝南北ラインでは25mまでの存在、東西ラインでは54mでの末端を確認し、東側では小規模なピットや溝状遺構を検出している。

2018年度は大溝東端部形状と東への延伸の可能性、北への延伸長、北・東縁の区画施設、区画内の状況の確認を目的に13箇所のトレンチを設定した。重機で表土を除去したのち、人力で掘り下げて地下の状況を確認した。

調査の結果 基本的な層序は表土（1層）、旧耕作土（2層）、黒色土（3・4層）、霧島御池軽石（5・6層）、黒色土（7層）、鬼界アカホヤ火山灰（8・9層）となる。

1Tは大溝（SD1）の東への延伸の確認を目的に設定した。1m以上の厚い造成土・旧耕作土の堆積があり、その下は上位を削平された6層となっていた。遺構・遺物は確認されなかった。土層堆積状況からは、大溝等が在する地形面よりも一段低く、南の開析谷へ向かって下る旧地形が考えられた。

2Tは大溝東端部形状確認を目的に2016-5T・11T、2017-3Tの間に設定した。大溝端部の平面形は、検出面では幅2.5m（2016-11Tの大溝南端部から計測）の隅丸方形、底面は幅1m以上の方形と推測された。壁面は約45°と急角度で立ち上がり、丁寧に整形される。従前の調査より溝埋土は、最下部の①黄色軽石と黒色シルト互層（n・o層）、その上の②レンズ状堆積の青灰色火山灰と③黄色軽石や鬼界アカホヤ火山灰をブロック状に含む黒色土層（k・m層）に大別され、①は溝開放時の流入土、③は人為的な埋め戻し土、②は12～13世紀噴出の火山灰（霧島御鉢起源）の可能性が指摘される¹⁾。今回の調査では②は観察できなかったが、①・③の状況は以前の調査と整合する。また、k層中において多数の硬化層ブロックが混じる点（k1a層ほか）も他の地点と共通しており、k層による埋め戻しの過程において、複数回の硬化面の形成と掘り直しがなされた結果と考えられた。遺物は埋土上位より白磁碗（1）・東播系須恵器（2・3）・土師器小片等が出土した。1は11世紀後半から12世紀前半²⁾の時期が考えられる。2は甕口縁部で外面に斜行する平行タタキののちナデ調整を施す。3は片口鉢片で体部は直線的に開き、口縁部は断面を方形状に仕上げる。2・3共に12世紀代³⁾と考えられる。SD1とSD2との接点付近では不整形の落

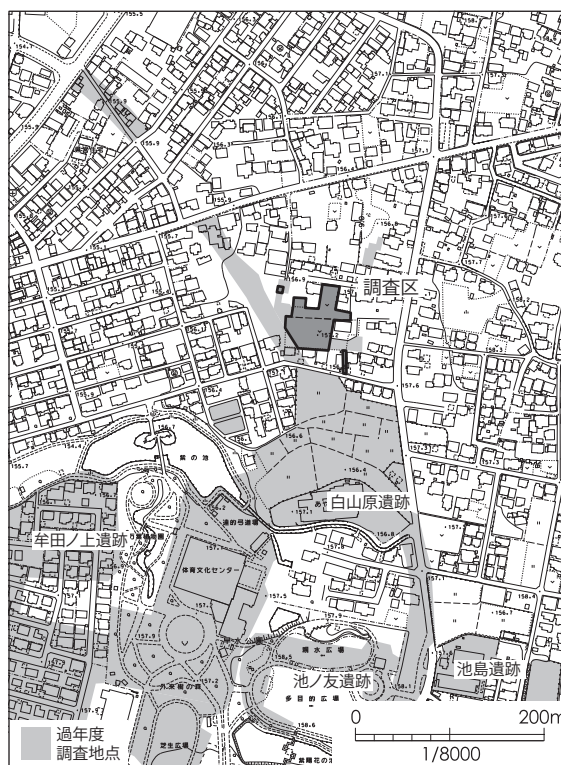
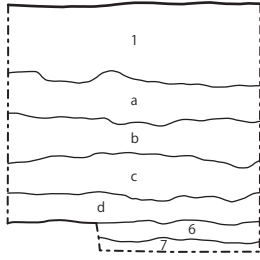


図1. 調査区位置



図 2. トレンチ及びレーダー探査位置

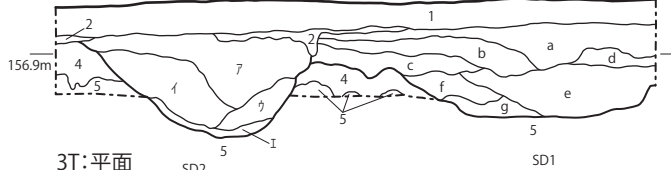
1T:東壁



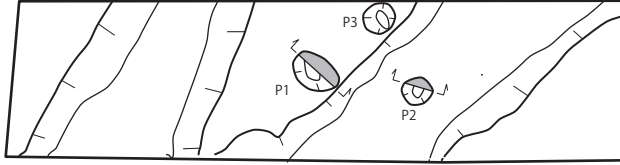
【1T】
1 シラス(造成土)
【1T:造成土】

- a 黒褐色砂質土(1cm以下の黄色・白色軽石少量, トタン・ビニール・発砲スチロール混, 造成土)
- b 黒褐色砂質土(1cm以下の黄色・白色軽石やや多, 旧耕作土?)
- c 暗褐色砂質土+ブロック状の黄色軽石(造成土)
- d 褐灰色砂質土(1cm以下の黄色・白色軽石少量, 旧耕作土?)

3T:北壁



3T:平面



【3T:SD1】

- ア 黒褐色シルト(しまりやや強, 2cm以下の黄色軽石少量)
- イ 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石微量)
- ウ 黒褐色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石やや多)
- エ 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石多量)
- ※a-g層に比べ、ややわらかくルーズ

【3T:SD2】

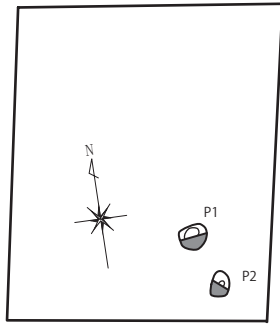
- a 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石ごく少量≒2T-a1?)
- b 黒褐色シルト(しまりやや強, 黄色軽石多量, ブロック状)
- c 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石(部分的にブロック状)少量)

- d 黒褐色シルト(1cm以下の黄色軽石をやや多, 一部赤色化, 硬化層)
- e 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石ごく少量)
- f 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石微量)
- g 黒褐色シルト(a-f層よりやや暗い, しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石ごく少量)

【3T:Pit】

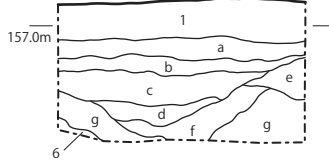
- あ 黒褐色土

4T:北壁



4T:平面

5T:北壁



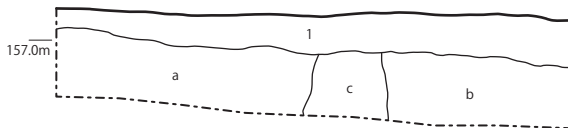
【5T:攪乱】

- a 暗褐色砂質土(しまり強, 2cm以下の黄色軽石・白色軽石やや多)
- b 暗褐色砂質土(しまり強い, a層より黄色軽石・白色軽石がやや少ない)
- c 暗褐色砂質土(しまり強い, a・b層よりやや明るい, 黄色・白色軽石少量)
- d 暗褐色砂質土(褐灰色土混, 黄色軽石・白色軽石少量)
- e 褐色砂質土(黒色土・アカホヤブロック・黄色・白色軽石を含む)
- f 褐色砂質土(黄色・白色軽石ごく少量)
- g 褐色砂質土(f層より黄色・白色軽石がやや多い)

【6T:攪乱】

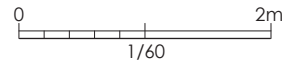
- a 黒褐色砂質土+黄色軽石+白色軽石+褐灰色砂質土+アカホヤブロック
- b a層+黒色土ブロック
- c 黒褐色砂質土(若干灰色がかかる, 1cm以下の黄色・白色軽石少量, 近現代イモ穴?)

6T:南壁



■ プラン検出部分(未掘)

▨ 攪乱



【基本土層】

- 1 表土・現耕作土
- 2 暗褐色~褐灰色砂質シルト(白色軽石を所々ブロック状に含む)
- 3 黒色シルト(黄褐色軽石ごく少量)
- 4 黒褐色シルト(黄褐色軽石少量)
- 5 暗褐色砂質土(2cm以下の黄色軽石多量, 霧島御池軽石漸移層)
- 6 黄褐色軽石(霧島御池軽石)
- 7 黒色シルト
- 8 暗褐色シルト(鬼界アカホヤ火山灰漸移層)
- 9 橙色シルト(鬼界アカホヤ火山灰)

【7T:SD1】

- 1a 1層に白色軽石を多量に含む
- a 黒褐色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石少量, やや砂質)
- b 黒褐色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石ごく少量, やや砂質)
- c 黒褐色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石微量)
- d 黒褐色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石ごく微量)
- e 黒色シルト(しまりやや弱, 2cm以下の黄色軽石やや多, 崩落土?)
- f 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石微量)

【7T:攪乱】

- ア 1層・4層・白色軽石・黄色軽石・黒色シルトの混合

【7T:SD2】(溝状遺構の)

- a 暗褐色シルト(5mm以下の黄色軽石ごく少量)
- b 暗褐色シルト(1cm以下の黄色軽石やや多)

7T:北壁



図3. トレンチ土層・平面. 1

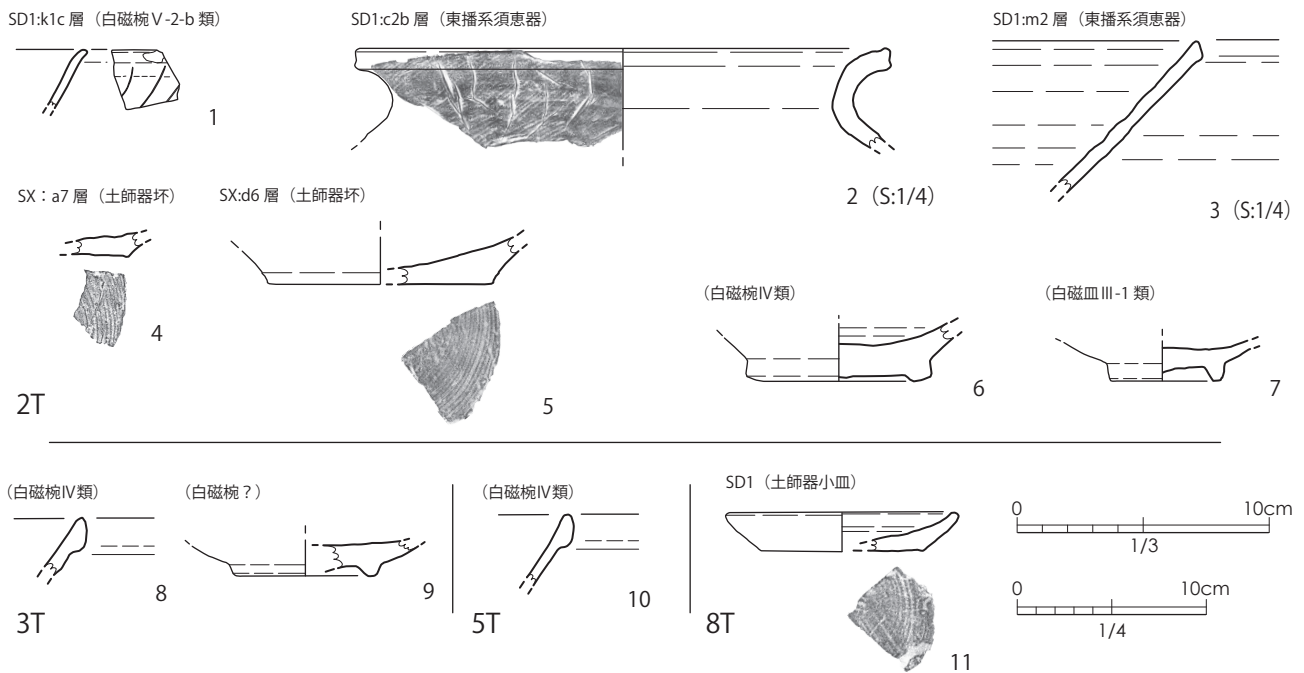


図 4. 出土遺物

ち込みを多数検出した。2017-3Tの同位置でも同様な落ち込みを検出しており、SD1に下る段状遺構を考えたが、今回の調査で不整形の落ち込みが広がる点と土層断面に生物擾乱(a5層)が認められたため、植物等の生物擾乱の可能性が高いと考えられた。

SD2~7は小型の溝状遺構である。SD2は長軸が南北方向の直線的な溝状遺構である。台形状の断面形で検出面からの深さは約50cmである。SF1・SX1等と重複しており、土層堆積よりSD2→SF1→C層(SF1上の造成土層)→SX1・SD7と考えられる。SF1は長軸が北東-南西の硬化面であり。SD2からSD1の埋土上部(i層)に部分的に残る。SX2はSD2の底面から東壁にかけて形成された横穴状の掘り込みである。用途は不明である。埋土はSD2よりやや黒味の強い黒色~黒褐色土で、内部より土師器坏片1点(5)が出土した。5は坏底部で糸切離しである。復元底径が約8cm、口縁部にかけて大きく開く器形と考えられ、12世紀~13世紀前半の時期が考えられる⁴⁾。SD7は大溝付近においてSD2と直交する溝状遺構である。土層断面にてb層として観察できるが、平面形は記録できていない。SD2は大溝の埋土上部においてSD7等によって大きな影響を受けており、関係が明確でないが、平面配置からは2017-3T・SD9、南の2016-11T・SF1東側の溝状遺構へ接続も考えられる。

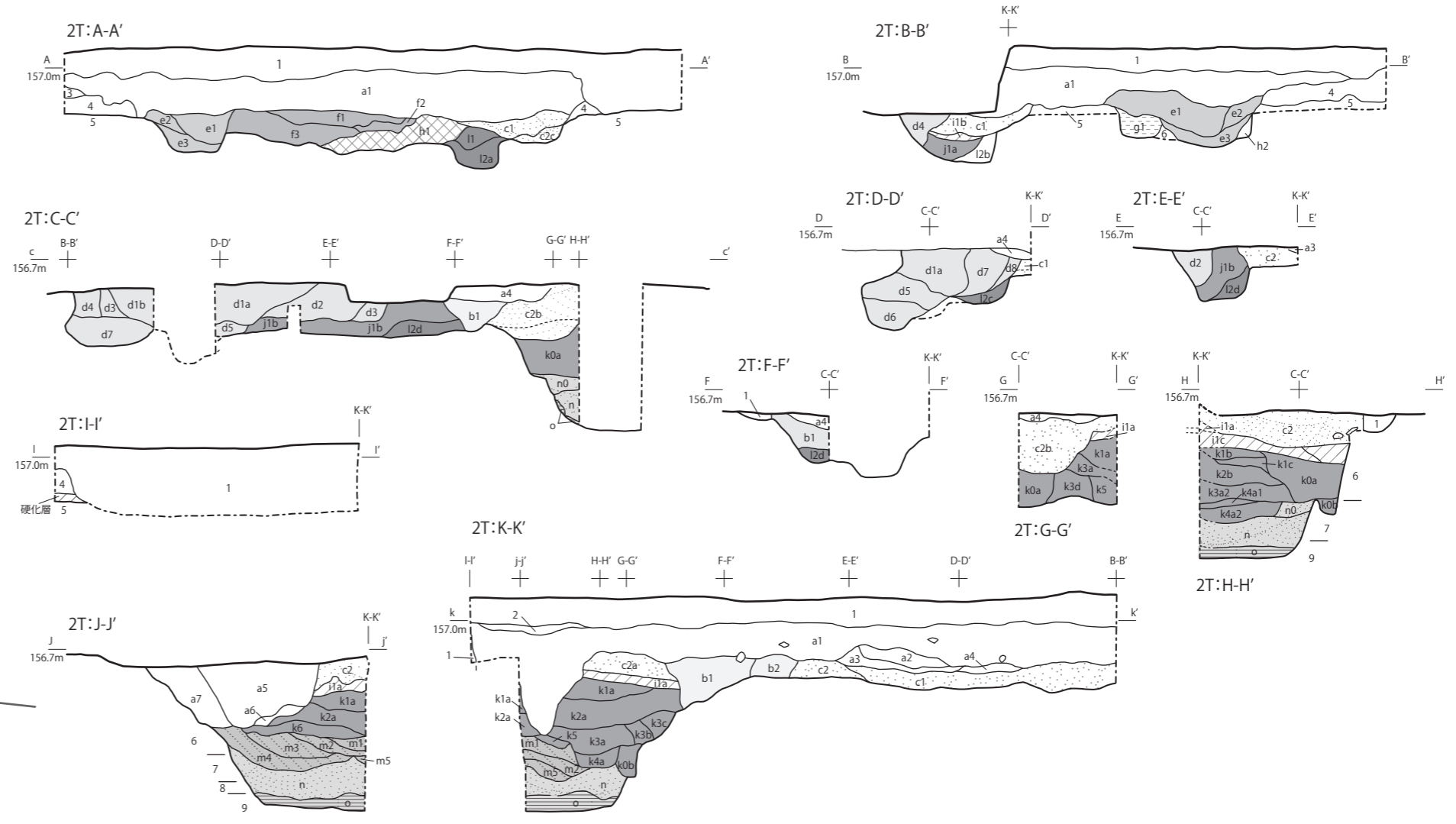
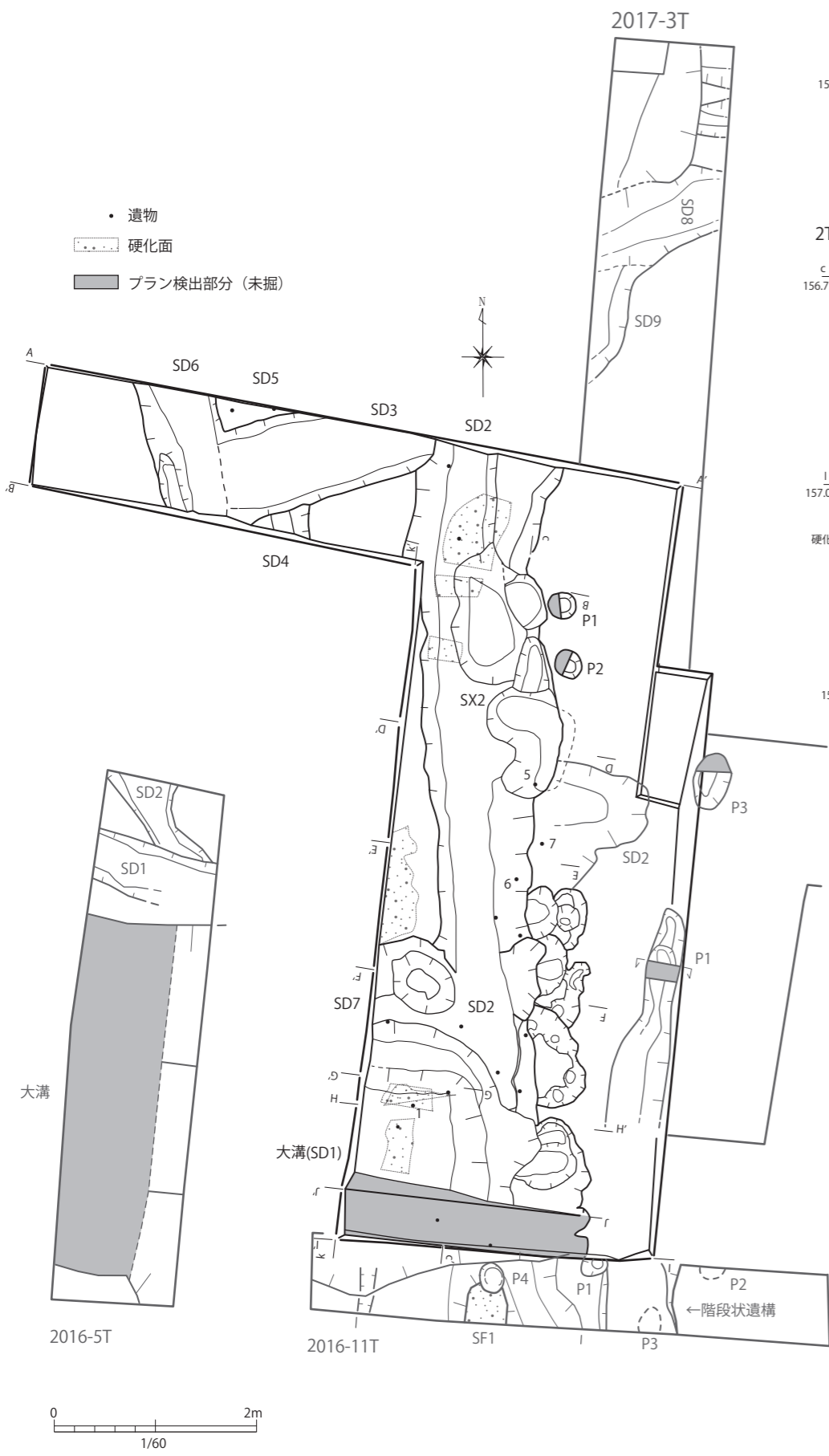
SD3~6はトレンチ北部で検出した。逆台形断面と考えられるSD4・6と浅い弧状断面のSD5・3に大別される。土層堆積からはSD3・4→5→6という先後関係が考えられた。

3T・6T~9Tは区画東縁・北縁の確認を目的に設定した。攪乱の影響が大きな5Tを除く各トレンチにて、従前の調査で検出した溝状遺構との接続が考えられる溝状遺構(①3T・SD1~2016-14T・SD2~6T・SD1、②8T・SD1~2016-9T・SD1~9T・SD1)を検出した。①・②共に逆台形断面のしっかりとした溝状遺構である。①では2016-14T・SD2から大溝の年代観と近い11世紀末~12世紀初頭の土師器が出土している。①は2T・SD2と合わせ、区画東縁の可能性も考えられたが、大溝との関係を明確にできなかった。

4T・5T・10T・12T・13Tは内部空間の様相の把握を目的に設定した。4Tで時期不明のピット、10Tで多数のピットと溝状遺構、13Tで浅い溝状遺構(SD1)を検出した。10Tで検出した遺構は、埋土の砂質が強く灰褐色土が混ざる点と近世陶磁器の出土より、いずれも近世遺構と考えられた。13T・SD1は長軸が東西方向の浅い溝状遺構である。埋土中より12世紀末~13世紀前半と考えられる土師器小皿⁴⁾が出土しているが、埋土が近世遺構に近い点より混在の可能性もある。

11Tは大溝の南北ラインの北限の確認を目的に設定した。大きな攪乱を受けていたが、検出面からの深さ70cmの溝状遺構と考えられる掘り込みを検出した。大溝と比較した場合、非常に浅いが、南北ラインは北上するにつれて規模の縮小が観察されており、大溝の延長の可能性が高いと考える。

調査のまとめ 今回の調査では大溝東端部の形状を把握したほか、南北ラインでは43mまでの延伸

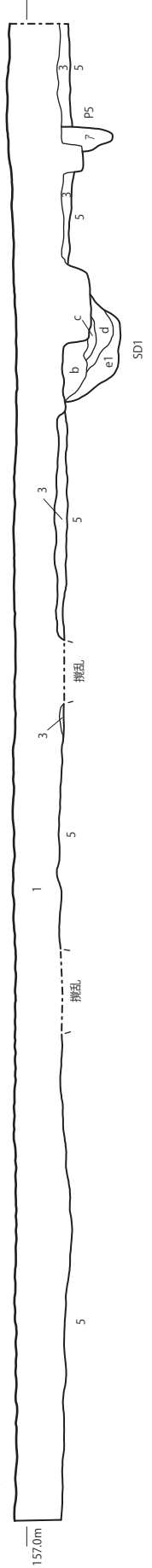


- 【基本土層】
 1 表土・現耕作土
 2 暗褐色～褐灰色砂質シルト(白色軽石を所々ブロック状に含む)
 3 黒色シルト(黄色軽石ごく少量)
 4 黒褐色シルト(黄色軽石少量)
 5 暗褐色砂質土(2cm以下の黄色軽石多量,霧島御池軽石漸移層)
 6 黄色軽石(霧島御池軽石)
 7 黒色シルト
 8 暗褐色シルト(鬼界アカホヤ火山灰漸移層)
 9 褐色シルト(鬼界アカホヤ火山灰)
- 【造成土】
 a1 黒褐色シルト(しまりやや弱, 2cm以下の黄色軽石少量, 濃淡あり)
 a2 黒褐色シルト(やや固い, 2cm以下の黄色軽石やや多, 一部赤化)
 a3 黒褐色シルト(しまり強, ブロック状の黄色軽石多量)
 a4 黒褐色シルト(しまり強, ブロック状の黄色軽石やや多)
 [SX1] 不明な掘り込みか樹根
 a5 黒褐色シルト(やや砂質, しまりやや強, 2cm以下の黄色軽石少量, 硬化層ブロック少量, 生物擾乱多量)
 a6 黒褐色シルト(やや砂質, しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石やや多)
 a7 黒褐色シルト(a5層より黄色軽石多い)
- 【SD7】
 b1 黒褐色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石少量, ややほぐれる)
 b2 黒褐色シルト(b1層より黄色軽石がやや多い)
- 【造成土】
 c1 黒色シルト(しまりやや弱, 2cm以下の黄色軽石ごく少量, 濃淡あり, 5層ブロック混)
 c2a 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石少量, アカホヤ混)
 c2b 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石少量, 全体的に散る, 樹根多量)
 c2c 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石やや多)
 c4 暗褐色シルト(1cm以下の白色・黄色軽石ごく少量, 崩落土)
- 【SX2】
 d1a 黒色シルト(しまりやや弱, 2cm以下の黄色軽石ごく少量)
 d1b 黒色シルト(しまりやや弱, 2cm以下の黄色軽石ごく少量, d1a層よりやや多い)
 d2 黒色シルト(しまりやや弱, 2cm以下の黄色軽石ごく少量, d1a層よりやや多い)
 d3 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石ごく少量)
 d4 黒色シルト(しまりやや弱, 2cm以下の黄色軽石ごく少量, d1b層よりわずかに多い)
 d5 黒色シルト(しまりやや強, 黄色軽石少量, 濃淡有)
 d6 黒色シルト(しまりやや強, 黄色軽石少量, 一部ブロック状)
 d7 黒褐色シルト(1cm以下の黄色やや多, 一部ブロック状の漸移層混)
 d8 黒褐色シルト(黄色軽石微量)
- 【SD6】
 e1 黒色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石微量)
 e2 黒褐色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石少量)
 e3 黒褐色シルト(しまりやや強, 2cm以下の黄色軽石やや多)
- 【SD5】
 f1 黒褐色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石微量)
 f2 黒褐色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石微量, f1層よりわずかに多い)
 f3 黒褐色シルト(しまり強, 1cm以下の黄色軽石やや多)
- 【SD4】
 g1 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石やや多)

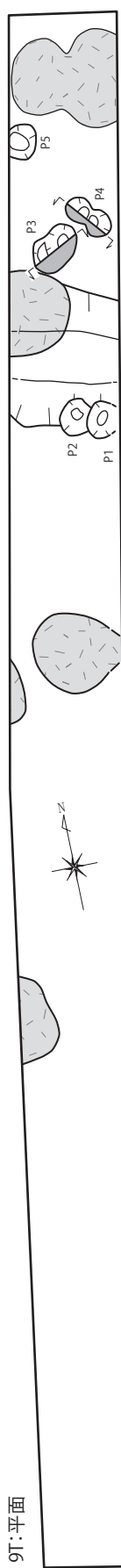
- 【SD3】
 h1 黒褐色シルト(しまりやや強, 2cm以下の黄色軽石微量)
 h2 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石やや多)
- 【SF1】
 i1a 黒褐色シルト(固い, 2cm以下の黄色軽石少量, 硬化層)
 i1b 黒色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石少量, 硬化層)
 [SD?・SX?] SD掘り返し?
 j1a 黒色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石少量, 濃淡有)
 j1b 黒色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石ごく少量, 濃淡有)
- 【SD2】
 l1 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石ごく少量)
 l2a 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石多量)
 l2b 黒褐色シルト(しまりやや強, 2cm以下の黄色軽石やや多, 全体的に散る)
 l2c 黒褐色シルト(しまりやや強, 2cm以下の黄色軽石多量)
 l2d 黒褐色シルト(しまりやや強, 2cm以下の黄色軽石少量)
 l2c 黒褐色シルト(l2b層よりやや黄色軽石多い)
- 【SD1・埋土上位】
 k0a 黒褐色シルト(しまりやや強, 3cm以下の黄色軽石ごく少量, 濃淡有)
 k0b 黒褐色シルト(k0a層よりやや明るい, しまり弱, 黄色軽石少量, 樹根?)
 k1a 黒褐色シルト(しまりやや強, 2cm以下の黄色軽石少量, 硬化層ブロック混)
 k1b 黒褐色シルト(しまりやや強, 5mm以下の黄色軽石ごく微量)
 k1c 黒褐色シルト(しまり強, 黄色軽石やや多, 一部赤化, 硬化層)
 k1d 黒褐色シルト(しまりやや強, 3cm以下の黄色軽石少量)
 k1e 黒色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石少量)
 k2a 黒褐色シルト(k1a層よりやや暗い, しまりやや強, 2cm以下の黄色軽石少量, 硬化層ブロック混)
 k2b 黒褐色シルト(しまりやや強, 3cm以下の黄色軽石少量)
 k3a 黒褐色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石やや多)
 k3a2 黒褐色シルト(しまりやや強, k0a層に近いが黄色軽石がやや多い)
 k3b 暗褐色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石多量, 霧島御池軽石層を巻き上げている, 樹根?)
 k3c 黒色シルト(ほぐれる, 1cm以下の黄色軽石ごく少量, 樹根?)
 k3d 黒色シルト(しまりやや弱, 2cm以下の黄色軽石ごく少量)
 k4a 黒色シルト(しまりやや強, 上部に多量の黄色軽石, 硬化層ブロック混 1cm以下の黄色軽石微量, 樹根?)
 k4a1 黒色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石やや多)
 k4a2 黒色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石少量)
 k5 黒褐色シルト(しまり強, 1cm以下の黄色軽石少量, 硬化層)
 k6 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石少量, 硬化層ブロックやや多)
 m1 黒褐色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石ごく少量)
 m2 黒色シルト(しまりやや強, 1cm以下の黄色軽石やや多, ブロック状の黄色軽石やや多)
 m3 黒色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石少量, 濃淡有)
 m4 黒色シルト(しまりやや強, 2cm以下の黄色軽石多量)
 m5 黒色シルト(しまりやや弱, 1cm以下の黄色軽石微量)
- 【SD1・埋土下位】
 n 黒褐色シルト(しまりやや弱, 黄色軽石多量)
 o 黒色シルト(しまりやや強, アカホヤブロック多量, 掘削時形成土)

図 5. トレンチ土層・平面. 2

9T:西壁

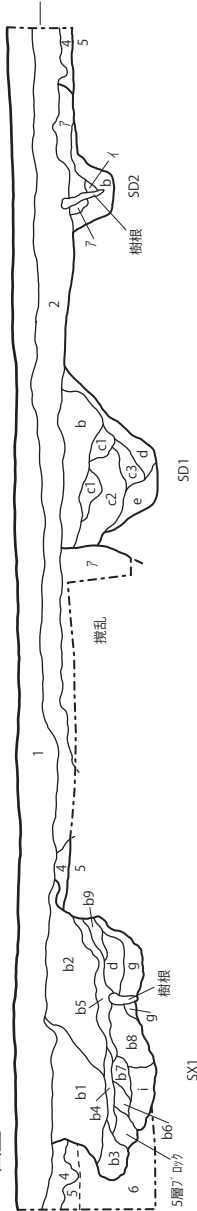


9T:平面



- 【基本土層】
- 表土・埋持作土
 - 暗褐色～褐色砂質シルト(白色軽石を所々ブロック状に含む)
 - 暗褐色シルト(黄褐色軽石ごく少量)
 - 黒褐色シルト(黄褐色軽石少量)
 - 暗褐色砂質土(2cm以下の黄色軽石少量、露島御池軽石層)
 - 黄褐色シルト(露島御池軽石)
 - 黒色シルト
 - 暗褐色シルト(境界アカホヤ火山灰新移層)
 - 褐色シルト(境界アカホヤ火山灰)
- 【9T:SD1】
- 黒褐色シルト(やや砂質、しまりやや強、1cm以下の黄色軽石少量、濃淡あり)
 - 黒褐色シルト(やや砂質、しまりやや強、1cm以下の黄色軽石ごく少量)
 - 褐色粘土
 - 黒褐色シルト(しまりやや強、2cm以下の黄色軽石微量)
 - 暗褐色シルト(しまりやや強、1cm以下の黄色軽石やや多、ブロック状)
 - 暗褐色シルト(しまりやや強、やや黄色軽石が少ない)
 - 黒褐色シルト(しまりやや強、黄色軽石やや多)

8T:西壁



- 【8T:SD1】
- 黒褐色シルト(しまりやや強、1cm以下の黄色軽石少量)
 - 暗褐色シルト(しまりやや強、1cm以下の黄色軽石ごく少量)
 - 黒褐色シルト(しまりやや強、1cm以下の黄色軽石少量、濃淡あり、ブロック状に混ざる)
 - 暗褐色シルト(しまりやや強、1cm以下の黄色軽石をやや多)
- 【8T:SD2】
- 黒褐色シルト(やや砂質、1cm以下の黄色軽石をごく少量、しまりやや強)
 - 暗褐色シルト(層より黄色軽石が少ない、しまりやや強、一部ブロック状、しまりやや強)
 - C1層にブロック状の5層を含む
 - C1層にブロック状の黄色軽石をやや多、しまりやや強、一部ブロック状、しまりやや強)
 - 暗褐色シルト(b層より黄色軽石が少ない、やや砂質、しまりやや強、1cm以下の黄色軽石ごく少量)
 - 暗褐色シルト(b層より黄色軽石多量・80%軽石)

- 【8T:SD1】
- 黒褐色砂質土(5mm以下の黄色軽石微量、しまりやや強)
 - 黒褐色シルト(1cm以下の黄色軽石をごく少量、しまりやや強)
 - 黒褐色シルト(b層よりわずかに黄色軽石が多い、しまりやや強)
 - 黒褐色シルト(1cm以下の黄色軽石をごく少量含む、しまりやや強い)
 - 黒褐色シルト(1cm以下の黄色軽石を微量含む、しまりやや強い)
 - D2層に黄色軽石がやや多い
 - 黒褐色シルト(しまりやや強、1cm以下の黄色軽石少量、5層ブロック含む)
 - 黒褐色シルト(しまりやや強、1cm以下の黄色軽石少量)
 - 黒褐色シルト(層より黄色軽石がやや少ない)
 - 黒褐色シルト(b層に黄色軽石多量、ブロック状)
 - 黒褐色シルト(b層にやや明るい、しまりやや強、黄色軽石多量)
 - 暗褐色シルト(1cm以下の黄色軽石をごく少量、ブロック状の軽石あり、濃淡あり)
 - 暗褐色シルト(しまりやや強、1cm以下の黄色軽石微量)
 - 黄色軽石+黒色シルト(ラミナ堆積)
 - 黒褐色シルト(やや砂質、2cm以下の黄色軽石ごく少量)
 - 黒褐色シルト(やや砂質、しまり弱、1cm以下の黄色軽石やや多、ラミナ状)
- 【8T:掘乱】
- 暗褐色砂質土(1cm以下の黄色軽石多量、ブロック状の5層含む)
 - 暗褐色砂質土(1cm以下の黄色軽石をやや多)

縮率:1/8

図7. トレンチ土層・平面. 2

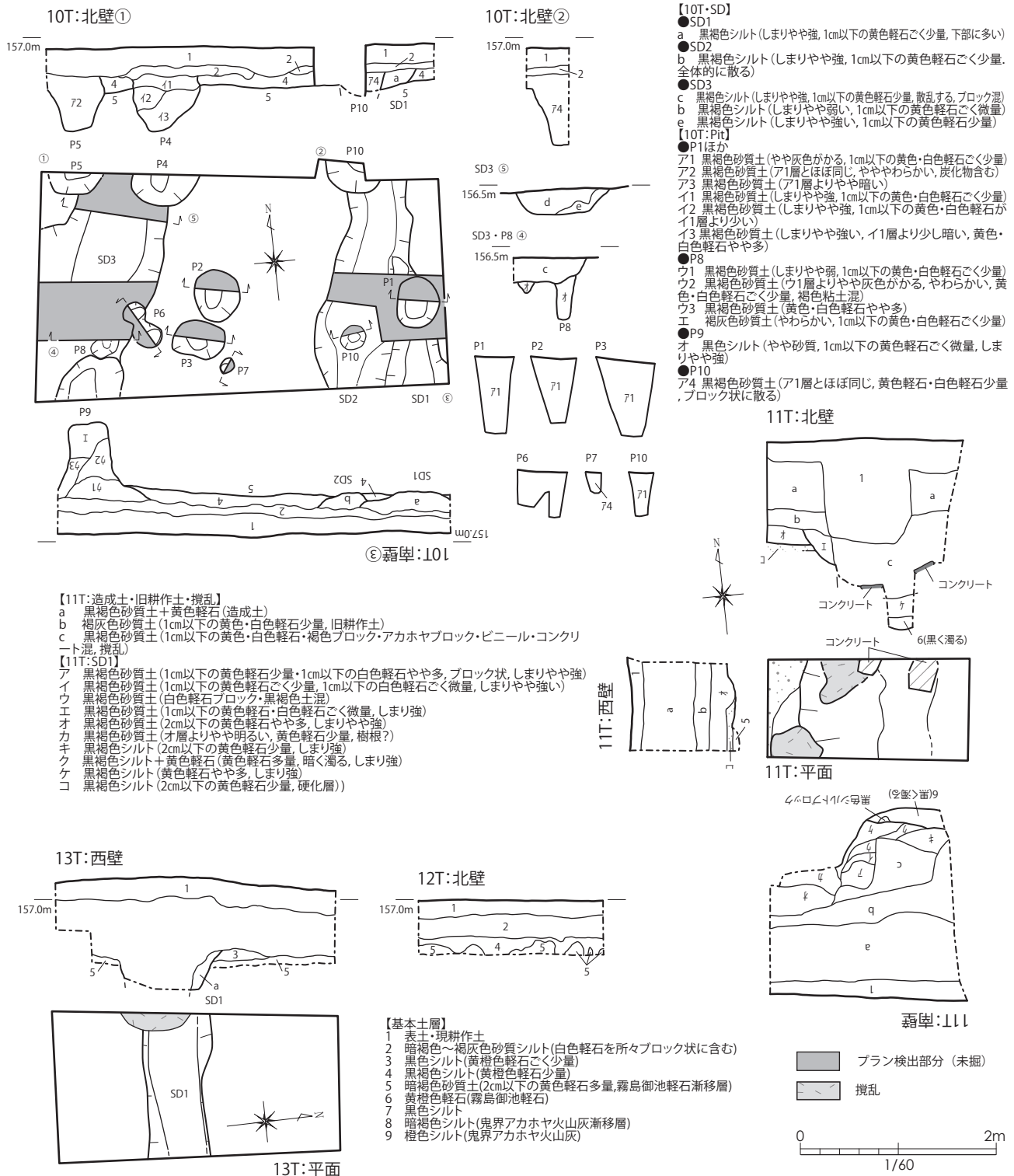


図6. トレンチ土層・平面. 3

を確認した。東・北部の区画施設は小型の溝状遺構が配置される点とその時期が大溝に近い点は確認できたが、直接的な関係はみいだせなかった。内部施設については、時期不明のピット、近世遺構を検出したのみであり、遺物量もごくわずかであった。従前の調査結果を合わせると大溝東端部付近に溝状遺構が集中する傾向と区画内における遺構・遺物の疎薄性がうかがわれる。

- 1) 都城市教育委員会. 2018. 『郡元西原遺跡(第2次調査)』
- 2) 太宰府市教育委員会. 2000. 『大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』
- 3) 森田稔. 1995. 「8. 中世須恵器」, 『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社
- 4) 栗畑光博. 2004. 「都城盆地における中世土師器の編年に関する基礎的研究」, 『宮崎考古』, 19



図版 1. 調査区（直上から・上が北）



図版 2. 2T（北から）



図版 3. 2T：SD1・2（南東から）



図版 4. 2T：SD1・2（東から）



図版 5. 2T：SD1 / 南・西壁土層



図版 6. 2T：SD2～5・北壁土層



図版 7. 3T（西から）



図版 8. 4T：SD1・攪乱（南から）



図版 9. 8T : SD1 (東から)



図版 10. 8T : SD2 (南東から)



図版 11. 8T : SX1 (北西から)



図版 12. 9T : SD1 (南西から)



図版 13. 10T (直上から・上が北)



図版 14. 11T (南西から)



図版 15. 11T : 南壁土層



図版 16. 重機使用状況

14. 切畑第3遺跡

所在地 美川町（下川内 639 号線）
 調査原因 市道新設
 調査期間 1991.7.16~20

遺物発見 1992.4.2
 調査面積 9㎡
 担当者 横山哲英・矢部喜多夫

位置と環境 開発予定地は盆地北西部、霧島火山群から続く山地帯の縁辺部に位置し、庄内川右岸に形成されたシラス台地面（溝の口丘陵）に立地する。周囲の低地面との比高差は約 30 m である。周辺域は庄内川を遡り、霧島山麓を抜け鹿児島湾地域へ至るルート沿いにあたり、霧島信仰に関する寺社が点在する地域である¹⁾。なお、本事業では工事中に青花磁器瓶が発見された。出土状況を本項にて併せて報告する。

調査の結果 丘陵北端の緩傾斜地にトレンチ 1 箇所を設定し、人力で掘下げて地下の状況を確認した。

層序は、耕作土 (1 層)、茶褐色土 (2 層)、霧島御池軽石 (3 層)、明褐色粘質土 (4 層)、鬼界アカホヤ火山灰 (5 層)、霧島牛のすね火山灰 (6 層)、暗黄色土 (7 層)、明赤褐色土 (8 層)、明赤褐色土 (9 層)、緑褐色土 (10 層)、暗緑褐色土 (11 層)、暗緑灰色土 (12 層) となる。

7・8 層中より若干の礫が出土したほかは、遺構・遺物は確認されなかった。これらの状況より、開発予定地に遺跡が存在する可能性は低いと判断した。

青花磁器瓶 1992 年 2 月 3 日、道路工事に伴う抜根整地作業中に工事関係者によって発見された。発見地点は丘陵の東縁辺部（標高 202.4 m 付近）にあたり、

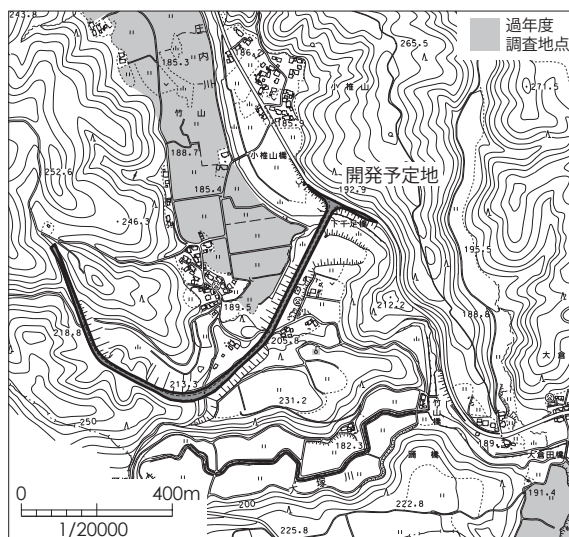


図 1. 調査区位置

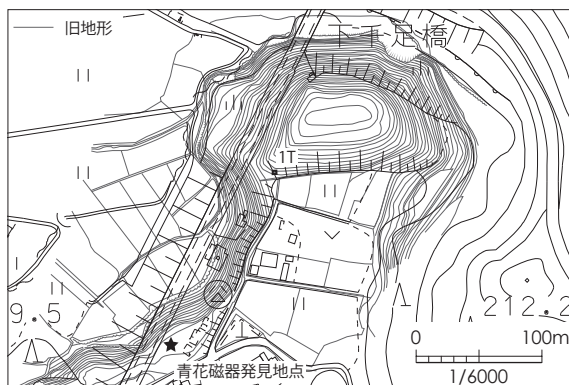


図 2. トレンチ配置

1T: 西壁

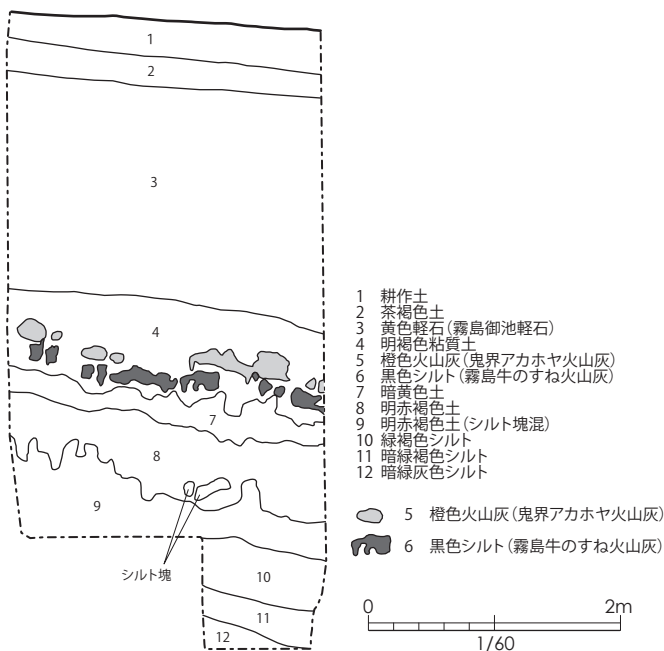
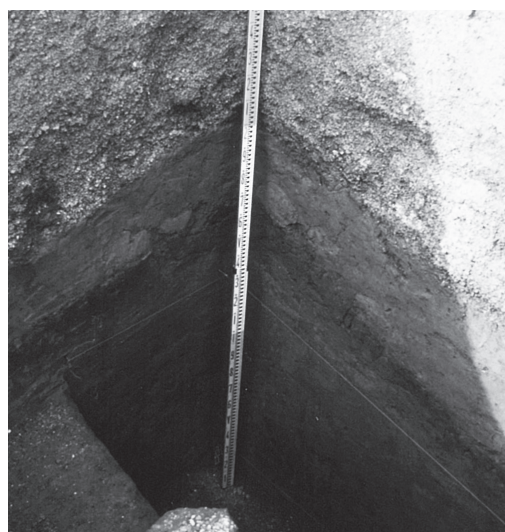


図 3. トレンチ土層



図版 1. トレンチ土層 (3 層より下)

丘陵上の平坦面から東側の崖面に向けて下る緩斜面(勾配約5%)²⁾である。青花磁器瓶2とともに白磁仏花瓶1、砂岩製石塔1が発見されたと記録されている。詳細な状況は不明である。また、工事関係者より市文化課(当時)に連絡があり、文化課職員によって発見地点付近の状況と発見資料の確認が行われている(日時不明)。2月5日に事業者等によるお祓いがなされたあと、近隣の千足神社に仮保管され、3月13日より都城市立図書館3階の市文化財収蔵庫(当時)で保管されることとなった。その後、4月20日付け都教文第30号で都城警察署長に埋蔵物発見届が提出され、4月30日付け108-11-10で宮崎県教育長より埋蔵文化財に認定された。また、発見地点付近は周知の埋蔵文化財包蔵地「切畑第3遺跡」として登録された。

青花磁器瓶は2点1対とされる。1は口径4.9cm、底径10.75cm、器高27cm、胴部最大径14cm。2は口径4.65cm、底径10.7cm、器高26.6cm、胴部最大径14.4cm。どちらも口縁部の一部を打ち欠く。底部は上げ底で胴上半は胴接ぎ成形である。肩部に蓮弁文で囲んだ唐草文と霊芝文(如意頭文)、胴部に宝相華唐草文、裾に簡略した蓮弁文をあしらう。景德鎮窯で15世紀後半の時期が考えられている。白磁仏花瓶は近世以降のものである。石塔は略三角柱状で現状高70.5cm、上辺幅19cm、厚さ18.8cm、下辺幅30cm、厚さ23cm。表面右に「天正十七(1589)丑七月□」、中央に月輪と「卍」、「徳叟□(宗力)雲禪定門」、左に「大連□(忌力)辰建立」の銘文がある。現在は千足神社境内に移設されている^{1),3)}。

2個対の完形青花磁器瓶である点、陶磁器供献の様相を示す資料とされる点より、2016年8月19日、「青花磁器瓶1対 附石塔1基」として都城市指定有形文化財に指定された。

- 1) 栗山葉子. 2017. 「切畑第3遺跡の青花磁器瓶について」『貿易陶磁研究』No.37
- 2) 工事前現況測量図における発見地点付近の等高線202～203m間の距離20mより算出。
- 3) 都城市. 2006. 『都城市史 資料編 考古』

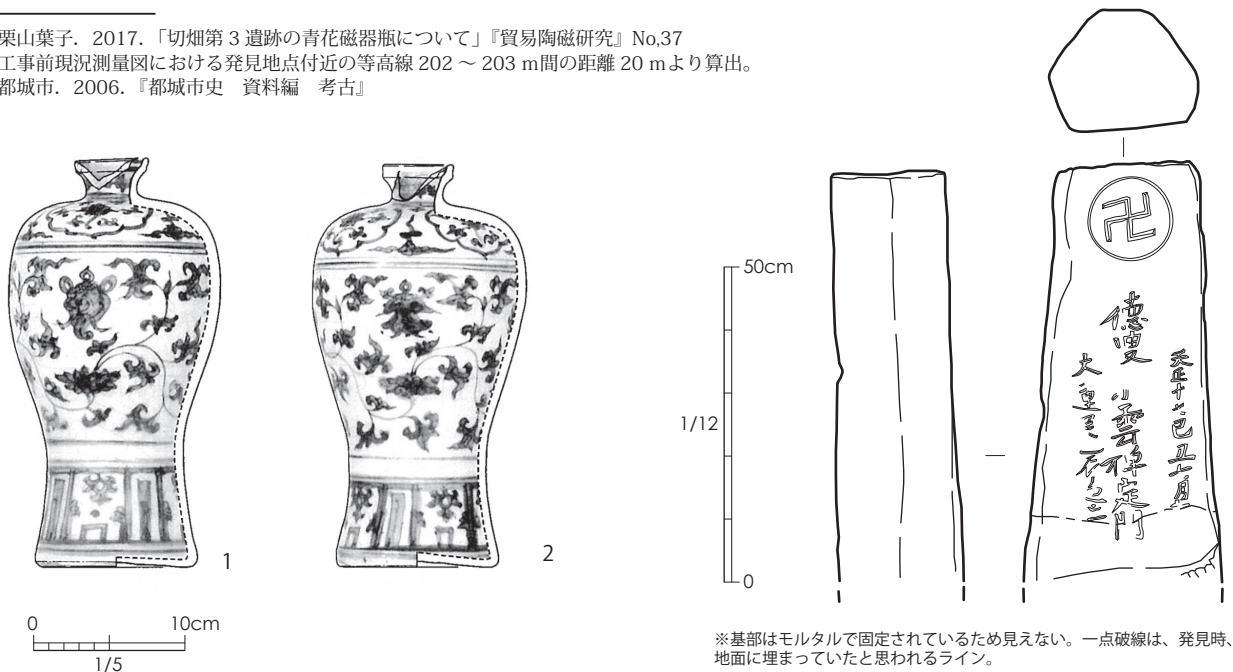


図4. 出土遺物



図版2. 発見地点(南東から)



図版3. 発見時保管状況

報告書抄録

ふりがな	みやこのじょうしないいせき 12					
書名	都城市内遺跡 12					
副書名						
巻次						
シリーズ名	都城市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第 141 集					
編著者名	近沢恒典 (編)					
編集機関	都城市教育委員会事務局文化財課					
所在地	宮崎県都城市菖蒲原町 19-1-16 郵便番号 885-0034					
発行年月日	2019年3月25日					

所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
下長飯城ヶ尾遺跡	下長飯町 703	31.705299	131.062182	2018.4.5	1.4㎡	個人住宅
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
城館跡・集落跡	古代			土師器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
田谷・尻枝遺跡	南横市町 4045-1 ほか	31.746121	131.03505	2018.4.24	43㎡	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
集落跡	弥生	周溝状遺構		弥生土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
遺跡枠外 (沖水地区公民館)	太郎坊町 1840-2	31.7776	131.089774	2018.4.27	4㎡	その他建物 (公民館)
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
遺跡枠外	なし	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
遺跡枠外 (志和池地区公民館)	上水流町 1536 ほか	31.807842	131.094903	2018.4.27	2㎡	その他建物 (公民館)
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
遺跡枠外	なし	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
遺跡枠外 (庄内地区公民館)	庄内町 12651-1 ほか	31.771758	131.019217	2018.11.26-30	12㎡	その他建物 (公民館)
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
遺跡枠外	なし	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
遺跡枠外 (花木第 3 団地)	山之口町花木 2405-3	31.785612	131.156698	2018.5.16・17	12㎡	市営住宅
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
遺跡枠外	縄文	なし		縄文土器片		新規：山之口佐土原遺跡
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
八幡城遺跡	五十町 1092 ほか	31.712924	131.044394	2018.5.24・25	38㎡	宅地造成・個人住宅
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	中世・近世	溝状遺構		中世土師器片・近世播鉢片		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
白拍子遺跡	郡元町 2688-3 ほか	31.745281	131.097644	2018.8.1	35㎡	その他開発 (不動産鑑定)
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	中世・近世	溝状遺構		近世陶磁器片		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
高城 19 号墳	高城町有水 2833-2	31.855964	131.128684	2018.8.16-24	24㎡	墳丘保全
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
古墳	古墳	古墳・周溝		須恵器片		宮崎県指定史跡
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
都城跡 (中之城)	都島町 863-1 ほか	31.714913	131.049936	2018.9.11	6㎡	その他開発 (不動産鑑定)
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
城館跡・集落跡	なし	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
犬王遺跡	山之口町富吉 6483-2 ほか	31.756236	131.144732	2018.11.27	24㎡	農業基盤整備事業 (畑地かんがい事業)
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文・古代	柱穴		縄文土器片・古代土師器片		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
遺跡枠外 (下川東四丁目)	下川東四丁目 4037 ほか	31.748403	131.069312	12/12-13	85㎡	公園
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
遺跡枠外	古代・中世	水田跡		古代・中世土師器片・古代須恵器片		新規：中尾下第 2 遺跡
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
遺跡枠外 (都城西飛行場跡)	都原町 7427	31.734072	131.043628	2018.12.25	6㎡	道路
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
遺跡枠外	なし	なし		近現代陶磁器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
郡元西原遺跡	郡元町 3337 ほか	31.741603	131.094474	2018.10.29-12.25	113㎡	遺跡範囲確認
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
集落跡	古代・中世	大型溝状遺構・溝状遺構・柱穴		白磁片・東播系須恵器片・古代・中世土師器片		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
切畑第 3 遺跡	美川町	31.784637	130.981694	1991.7.16-20	9㎡	道路
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
その他の遺跡	中世	なし		なし		工事中に青花磁器瓶発見

都城市文化財調査報告書 第141集

都城市内遺跡12

2019年3月25日

編集・発行 都城市教育委員会事務局 文化財課
宮崎県都城市菖蒲原町 19-1-16
郵便 885-0034 電話 (0986)23-9547

印刷・製本 有限会社 五十市印刷
宮崎県都城市平塚町 3140-1
郵便 885-0085 電話 (0986)26-8006

新 城

新

幸せ上々、みやこのじょう

日本一の肉と焼酎、とっておきの自然と伝統